

令和8年度

臓器別講義演習Ⅱ・Ⅲの手引き

〈医学科4年次学生用〉

新潟大学医学部医学科

医学部医学科の教育理念

医学を通して人類の幸福に貢献する

医学部医学科が求める学生像

- ・ 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探究心を有する人
- ・ 協調性に富み、豊かな教養と人間性、社会に貢献するために必要な倫理観を有する人
- ・ 広い視野を有し、積極的に行動できる人

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

医学部医学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学科では、所定の年限在学し、医学科の教育理念「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づき定められた全科目に合格し、科学的姿勢、コミュニケーション能力、人間性、社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につけた学生に学士（医学）の学位を授与する。

新潟大学医学部医学科のアウトカム

I コミュニケーション

卒業生は：
患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：
以下の医学に関する知識を有し実践に応用できる。

1. 各臓器の構造と機能
2. 心理・行動
3. 病態生理
4. 診断と治療
5. 疫学
6. 医薬品と薬理作用
7. 医療機器
8. 医療行政
(予防/保健/福祉/医療)
9. 医療経済

III 倫理観と人間性

卒業生は：
患者・利用者の価値観や背景を理解し、個性を尊重できる。プロフェSSIONALにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点を持ち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振る舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：
基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：
保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：
国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。

1. 地域の実情（伝統や風習）を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取り組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：
基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：
生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探究心、向学心、向上心をもち続けられる。

目 次

コース (8) 「皮膚・形成系」	1
コース (9) 「消化器系」	10
コース (10) 「腎・泌尿器系」	39
コース (11) 「生殖・発達系」	51
コース (12) 「視覚器」	87
コース (13) 「麻酔・救急蘇生系」	99
コース (14) 「耳鼻頭頸」	112
コース (15) 「運動器系」	126
コース (16) 「免疫系」	136
コース (17) 「放射線各論」	141
コース (18) 「腫瘍学・緩和医療学」	147
コース (19) 「病理各論Ⅱ」	158

臓器別統合コース

学習の条件：

基礎医学全般と臨床初歩の統合臨床医学の学習を終了し、初めて臨床医学を学ぶ学生（3年次後期～4年次後期、臨床実習入門前）

到達目標：

全人的医療の実践を目的とした臨床実習を円滑に行うために、人体各臓器に関する臨床の基本的知識と初歩的な問題解決能力を修得する。

コース：

臓器別講義・演習Ⅰ 3年次後期

(1) 血液系 (2) 循環器系 (3) 呼吸器系 (4) 脳・神経系 (5) 精神神経系
(6) 内分泌・代謝系 (7) 病理各論Ⅰ

臓器別講義・演習Ⅱ・Ⅲ 4年次前・後期

(8) 皮膚・形成系 (9) 消化器系 (10) 腎・泌尿器系 (11) 生殖・発達系
(12) 視覚器 (13) 麻酔・救急蘇生系 (14) 耳鼻頭頸 (15) 運動器系
(16) 免疫系 (17) 放射線各論 (18) 腫瘍学・緩和医療学 (19) 病理各論Ⅱ

学習方法の原則：

1. テーマ、特に症例についてグループ学習(1班約8-10名)を行う。学習時、班における役割、すなわちリーダー、発表者(プレゼンター)、記録者(レコーダー)、質問者などをその都度決める。
2. 各学習室でインターネット検索が可能。
3. 質問のある場合、学習時間内、あるいは予めメールなどでアポイントをとり、質問時間に指定場所に出向く。
4. 必要最小限の教科書・参考書(責任教員から紹介のもの等)は学生自ら準備する。
5. 個人の学習成果についてレポートを所定の様式で提出し、評価を受ける。
6. 学習成果についてグループで発表し、全体または数グループで討議を行い、評価を受ける。記録者はグループの発表プロダクトをまとめ、提出する。
7. 講義を聴講し、小テストを受ける。
8. 筆記試験等を受け、評価(総括的評価)を受ける。筆記試験の実施の有無は、コース担当者からの説明を確認すること。

令和8年度新潟大学医学部医学科 授業暦 (2026.4~2027.3)

／は、休業（講）日を示す。

第1学期

第2学期

第1学期							第2学期															
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土									
4月			1	2	3	4	4月				1	2	3									
	5	6	7	8	9	10		11	4	5	6	7	8	9	10							
	12	13	14	15	16	17		18	11	12	13	14	15	16	17							
	19	20	21	22	23	24		25	18	19	20	21	22	23	24							
	26	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31							
4/1 学年開始 4/1 (2~6年次) 第1学期授業開始 4/3 入学式 4/3 旭町医療系学部合同ガイダンス (2年次)							10月								10月							
								3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7
								10	11	12	13	14	15	16		8	9	10	11	12	13	14
								17	18	19	20	21	22	23		15	16	17	18	19	20	21
								24	25	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
								31								29	30					
5/8 解剖体慰霊祭(2年次) 帰還追悼式(3年次)							11月								11月							
								3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7
								10	11	12	13	14	15	16		8	9	10	11	12	13	14
								17	18	19	20	21	22	23		15	16	17	18	19	20	21
								24	25	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
31							29	30														
6/1 開学記念日							12月								12月							
								1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6	7
								8	9	10	11	12	13	14		8	9	10	11	12	13	14
								15	16	17	18	19	20	21		15	16	17	18	19	20	21
								22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28
29	30						29	30														
7/24 授業終了(2年次) 7/24 授業終了(5年次) 7/27 授業終了(3年次) 7/31 授業終了(4年次)							1月								1月							
								1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6	7
								8	9	10	11	12	13	14		8	9	10	11	12	13	14
								15	16	17	18	19	20	21		15	16	17	18	19	20	21
								22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28
29	30						29	30														
8/3 授業終了(6年次) 8/21, 8/24~8/27 EME(1年次) 8/31 授業再開(5年次)							2月								2月							
								1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6	7
								8	9	10	11	12	13	14		8	9	10	11	12	13	14
								15	16	17	18	19	20	21		15	16	17	18	19	20	21
								22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28
29	30						29	30														
9/1,2 Post-CC-OSCE (6年次) 9/3授業再開 (4年次) 9/7 授業再開(3年次) 9/7~10/30医学研究実習(3年次) 9/14 授業再開 (2年次) 9/8~10/2臨床医学講義(集中)(6年次)							3月							3月								
								1	2	3	4	5	6		7	1	2	3	4	5	6	7
								8	9	10	11	12	13		14	8	9	10	11	12	13	14
								15	16	17	18	19	20		21	15	16	17	18	19	20	21
								22	23	24	25	26	27		28	22	23	24	25	26	27	28
29	30						29	30														

<p>補講(予備)日 2年次 2026年7月27日~8月7日 3年次 2026年7月28日~8月7日 4年次 2026年8月3日~8月7日 5年次 2026年8月3日~8月7日 6年次 2026年8月4日~8月7日</p> <p>夏期休業 2年次 2026年8月11日~9月13日 3年次 2026年8月11日~9月6日 4年次 2026年8月11日~9月2日 5年次 2026年8月11日~8月30日 6年次 2026年8月11日~8月31日</p>	<p>冬期休業 2~5年次 2026年12月27日~2027年1月3日</p> <p>補講(予備)日 2年次 2027年2月8日~3月10日 3年次 2027年3月2日~3月10日</p> <p>春期休業 2, 3, 5年次 2027年3月11日~3月31日 4年次 2027年3月27日~3月31日</p>
--	--

参考 (1年次) 第1ターム 2026年4月8日~6月8日 第3ターム 2026年10月2日~12月1日
第2ターム 2026年6月10日~8月5日 第4ターム 2026年12月3日~2027年2月12日

4 年次生・第 1 学期

令和 8 年度 新潟大学医学部医学科 授業時間割表

第1週 (2026. 4. 1-4. 3)

(第 3 講義室)

時間	曜日	3月30日(月)	3月31日(火)	4月1日(水)	4月2日(木)	4月3日(金)
8:30 ~ 10:00		X	X	学年ガイダンス キャリアパス説明会	皮膚・形成	入学式のため休講
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30				皮膚・形成	皮膚・形成	
14:50 ~ 16:20						

第2週 (2026. 4. 6-4. 10)

時間	曜日	4月6日(月)	4月7日(火)	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	皮膚・形成	補講 (健康診断) 09:00-11:30 男子 13:00-15:30 女子	皮膚・形成
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	皮膚・形成	皮膚・形成	法医学	皮膚・形成
14:50 ~ 16:20						

第3週 (2026. 4. 13-4. 17)

時間	曜日	4月13日(月)	4月14日(火)	4月15日(水)	4月16日(木)	4月17日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	皮膚・形成	皮膚・形成*試験 消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	皮膚・形成	皮膚・形成	消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第4週 (2026. 4. 20-4. 24)

時間	曜日	4月20日(月)	4月21日(火)	4月22日(水)	4月23日(木)	4月24日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	消化器系	消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	消化器系	消化器系	消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第5週 (2026. 4. 27-5. 1)

時間	曜日	4月27日(月)	4月28日(火)	4月29日(水)	4月30日(木)	5月1日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	消化器系	昭和の日	消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	消化器系		消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第6週 (2026. 5. 4-5. 8)

時間	曜日	5月4日(月)	5月5日(火)	5月6日(水)	5月7日(木)	5月8日(金)
8:30 ~ 10:00		みどりの日	こどもの日	振替休日	消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30					消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第7週 (2026. 5. 11-5. 15)

時間	曜日	5月11日(月)	5月12日(火)	5月13日(水)	5月14日(木)	5月15日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	消化器系	消化器系 *試験	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	消化器系	消化器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第8週 (2026. 5. 18-5. 22)

時間	曜日	5月18日(月)	5月19日(火)	5月20日(水)	5月21日(木)	5月22日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第9週 (2026. 5. 25-5. 29)

時間	曜日	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)
8:30 ~ 10:00		病理各論Ⅱ	多職種連携	腎・泌尿器系	法医学	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

4 年次生・第 1 学期

令和 8 年度 新潟大学医学部医学科 授業時間割表

第10週 (2026. 6. 1-6. 5)

(第 3 講義室)

時間	曜日	6月1日(月)	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)
8:30 ~ 10:00	病理各論Ⅱ		多職種連携	腎・泌尿器系	法医学	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学		腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第11週 (2026. 6. 8-6. 12)

時間	曜日	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)
8:30 ~ 10:00	法医学		病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学		腎・泌尿器系*試験	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20			生殖・発達系			

第12週 (2026. 6. 15-6. 19)

時間	曜日	6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)
8:30 ~ 10:00	法医学		病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学		医療情報学(応用)	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20						

第13週 (2026. 6. 22-6. 26)

時間	曜日	6月22日(月)	6月23日(火)	6月24日(水)	6月25日(木)	6月26日(金)
8:30 ~ 10:00	法医学		病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学		医療情報学(応用)	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20						

第14週 (2026. 6. 29-7. 3)

時間	曜日	6月29日(月)	6月30日(火)	7月1日(水)	7月2日(木)	7月3日(金)
8:30 ~ 10:00	法医学		病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学		医療情報学(応用)	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20						

第15週 (2026. 7. 6-7. 10)

時間	曜日	7月6日(月)	7月7日(火)	7月8日(水)	7月9日(木)	7月10日(金)
8:30 ~ 10:00	法医学		病理各論Ⅱ	生殖・発達系	視覚器	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系	視覚器	生殖・発達系*試験
14:50 ~ 16:20						

第16週 (2026. 7. 13-7. 17)

時間	曜日	7月13日(月)	7月14日(火)	7月15日(水)	7月16日(木)	7月17日(金)
8:30 ~ 10:00	公衆衛生学		病理各論Ⅱ	視覚器	視覚器	視覚器
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	公衆衛生学*試験		医療情報学(応用)	視覚器	視覚器	視覚器*試験
14:50 ~ 16:20						

第17週 (2026. 7. 20-7. 24)

時間	曜日	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)
8:30 ~ 10:00	海の日		病理各論Ⅱ*試験	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30			麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系
14:50 ~ 16:20						

第18週 (2026. 7. 27-7. 31)

時間	曜日	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)
8:30 ~ 10:00	法医学*試験		麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系*試験
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	麻酔・救急蘇生系		麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系*試験
14:50 ~ 16:20						

第1週 (2026. 9. 1-9. 4)

(第 3 講義室)

時間	曜日	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
8:30 ~ 10:00					耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30					耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
14:50 ~ 16:20						

(6年 Post-CC OSCE) (6年 Post-CC OSCE)

第2週 (2026. 9. 7-9. 11)

時間	曜日	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
8:30 ~ 10:00		耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸 *試験	補講	運動器系
10:20 ~ 11:50					運動器系	
13:00 ~ 14:30		耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	運動器系	運動器系	運動器系
14:50 ~ 16:20						

第3週 (2026. 9. 14-9. 18)

時間	曜日	9月14日(月)	9月15日(火)	9月16日(水)	9月17日(木)	9月18日(金)
8:30 ~ 10:00		運動器系	運動器系	運動器系	運動器系	運動器系 *試験
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		運動器系	運動器系	運動器系	運動器系	免疫系
14:50 ~ 16:20						

第4週 (2026. 9. 21-9. 25)

時間	曜日	9月21日(月)	9月22日(火)	9月23日(水)	9月24日(木)	9月25日(金)
8:30 ~ 10:00		敬老の日	国民の祝日	秋分の日	免疫系	免疫系
10:20 ~ 11:50	免疫系				免疫系	
13:00 ~ 14:30	免疫系				免疫系	
14:50 ~ 16:20	免疫系				免疫系	

第5週 (2026. 9. 28-10. 2)

時間	曜日	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)
8:30 ~ 10:00		免疫系	免疫系	免疫系	放射線各論	放射線各論
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		免疫系	免疫系	免疫系 *試験	放射線各論	放射線各論
14:50 ~ 16:20						

第6週 (2026. 10. 5-10. 9)

時間	曜日	10月5日(月)	10月6日(火)	10月7日(水)	10月8日(木)	10月9日(金)
8:30 ~ 10:00		放射線各論	放射線各論	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		放射線各論	補講	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学
14:50 ~ 16:20			放射線各論*試験			

第7週 (2026. 10. 12-10. 16)

時間	曜日	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)
8:30 ~ 10:00		スポーツの日		CBT トライアル	CBT 試験日	CBT 試験日
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第8週 (2026. 10. 19-10. 23)

時間	曜日	10月19日(月)	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門 (CBT試験予備 日)	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30			臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20						

※臨床実習入門の詳細なスケジュール等は別途通知します。

第9週 (2026. 10. 26-10. 30)

時間	曜日	10月26日(月)	10月27日(火)	10月28日(水)	10月29日(木)	10月30日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20						

第10週 (2026. 11. 2-11. 6)

時間	曜日	11月2日(月)	11月3日(火)	11月4日(水)	11月5日(木)	11月6日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	文化の日	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30				臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20						

第11週(2026.11.9-11.13)

時間	曜日	11月9日(月)	11月10日(火)	11月11日(水)	11月12日(木)	11月13日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	OSCE 試験日	シミュレーター自己 学習
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門		シミュレーター自己 学習

第12週(2026.11.16-11.20)

時間	曜日	11月16日(月)	11月17日(火)	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)
8:30 ~ 10:00		シミュレーター自己 学習			OSCE 試験日	OSCE 試験日
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		シミュレーター自己 学習				
14:50 ~ 16:20						

第13週(2026.11.23-11.27)

時間	曜日	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)
8:30 ~ 10:00		勤労感謝の日	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30			臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20						

第14週(2026.11.30-12.4)

時間	曜日	11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20						

第15週(2026.12.7-12.11)

時間	曜日	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	CBT 再試験日	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	
14:50 ~ 16:20						

第16週(2026.12.14-12.18)

時間	曜日	12月14日(月)	12月15日(火)	12月16日(水)	12月17日(木)	12月18日(金)
8:30 ~ 10:00		医学英語Ⅱ	医学英語Ⅱ	臨床実習入門	臨床実習入門	医学英語Ⅱ
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		医学英語Ⅱ	医学英語Ⅱ	臨床実習入門	臨床実習入門	医学英語Ⅱ
14:50 ~ 16:20						

※12月13日(日) 医療系大学間共用試験実施評価機構実施によるOSCE再試験実施予定

第17週(2026.12.21-12.25)

時間	曜日	12月21日(月)	12月22日(火)	12月23日(水)	12月24日(木)	12月25日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	白衣式 臨床実習ガイダンス (予定)			
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		臨床実習入門				
14:50 ~ 16:20						

※医学英語Ⅱ、白衣式、臨床実習ガイダンスの日程について変更する可能性があります。

第18週(2027.1.4-1.8)

時間	曜日	1月4日(月)	1月5日(火)	1月6日(水)	1月7日(木)	1月8日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習Ⅰ ①				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第19週(2027.1.11-1.15)

時間	曜日	1月11日(月)	1月12日(火)	1月13日(水)	1月14日(木)	1月15日(金)
8:30 ~ 10:00		成人の日	臨床実習Ⅰ ①			
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第20週(2027.1.18-1.22)

時間	曜日	1月18日(月)	1月19日(火)	1月20日(水)	1月21日(木)	1月22日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習Ⅰ ①				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第21週 (2027. 1. 25 - 1. 29)

時間	曜日	1月25日(月)	1月26日(火)	1月27日(水)	1月28日(木)	1月29日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ②				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第22週 (2027. 2. 1 - 2. 5)

時間	曜日	2月1日(月)	2月2日(火)	2月3日(水)	2月4日(木)	2月5日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ②				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第23週 (2027. 2. 8 - 2. 12)

時間	曜日	2月8日(月)	2月9日(火)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月12日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ②			建国記念の日	臨床実習 I ②
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第24週 (2027. 2. 15 - 2. 19)

時間	曜日	2月15日(月)	2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ③				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第25週 (2027. 2. 22 - 2. 26)

時間	曜日	2月22日(月)	2月23日(火)	2月24日(水)	2月25日(木)	2月26日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ③	天皇誕生日	臨床実習 I ③		
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第26週 (2027. 3. 1 - 3. 5)

時間	曜日	3月1日(月)	3月2日(火)	3月3日(水)	3月4日(木)	3月5日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ③				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第27週 (2027. 3. 8 - 3. 12)

時間	曜日	3月8日(月)	3月9日(火)	3月10日(水)	3月11日(木)	3月12日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ④				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第28週 (2027. 3. 15 - 3. 19)

時間	曜日	3月15日(月)	3月16日(火)	3月17日(水)	3月18日(木)	3月19日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習 I ④				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第29週 (2027. 3. 22 - 3. 26)

時間	曜日	3月22日(月)	3月23日(火)	3月24日(水)	3月25日(木)	3月26日(金)
8:30 ~ 10:00		振替休日	臨床実習 I ④			
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

コース (8) 「皮膚・形成」

担当教室：皮膚科、形成外科

到達目標：臨床医学の学習を円滑に行うために、主な皮膚疾患の基本的知識と初歩的な問題解決能力を修得する。

ユニット：

- ① 「皮膚科学概説、発疹学、皮膚科における Translational Medicine」
- ② 「アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎」
- ③ 「皮膚癌・悪性黒色腫、母斑と母斑症」
- ④ 「光による皮膚障害、色素異常症」
- ⑤ 「角化症、水疱症・膿疱症、遺伝性皮膚疾患、毛髪疾患」
- ⑥ 「膠原病の皮膚病変、皮膚感染症」
- ⑦ 「レーザー・熱傷、皮膚外科、美容外科」

学習方法：

各ユニット参照

注意事項(共通)：

1. 講義は対面形式あるいは配信形式で全員が聴講する。
配信の場合、講義の視聴後、時間割に記載された日までに小テストの解答を各自提出することにより、出席とみなす（例：4月4日2限の場合、4月4日の24時までには解答を提出する）。
2. コースの最後に筆記試験を受け、評価(総括的評価)、進級判定を受ける。
3. 3分の2以上の講義出席がない場合には筆記試験を受験する資格をもたない。

臓器別統合コース：コース(8)「皮膚・形成」時間割

	2026年3月30日 月	2026年3月31日 火	2026年4月1日 水	2026年4月2日 木	2026年4月3日 金
8:30			学年ガイダンス キャリアパス説明会	●「皮膚腫瘍と 皮膚外科」 ユニット③ 竹之内	休講
10:00					
10:20			学年ガイダンス キャリアパス説明会	●「遺伝性皮膚疾患」 ユニット⑤ 林	休講
11:50					
13:00			●「薬疹」 ユニット② 濱	●「重篤な薬疹を 経験した患者から」 ユニット①～⑥ 患者会：湯浅和恵さん	休講
14:30					
14:50			●「レーザー、熱傷」 ユニット⑦ 橋田 若槻	●「接触皮膚炎」 ユニット② 伊藤	休講
16:20					

	2026年4月6日 月	2026年4月7日 火	2026年4月8日 水	2026年4月9日 木	2026年4月10日 金
8:30	法医学	病理各論Ⅱ	●「母斑と母斑症」 ユニット③ 齋藤 (オンデマンド配信)	補講 (健康診断)	●「毛髪疾患」 ユニット⑤ 林 (オンデマンド配信)
10:00					
10:20	法医学	病理各論Ⅱ	●「皮膚癌・悪性黒色腫」 ユニット③ 齋藤 (オンデマンド配信)	補講 (健康診断)	●「水疱症・膿疱症」 ユニット⑤ 長谷川 (オンデマンド配信)
11:50					
13:00	公衆衛生学	●「リハビリメイク®」 ユニット⑦ かづき	●「アトピー性皮膚炎」 ユニット② 木村 (オンデマンド配信)	補講 (健康診断)	●「皮膚感染症」 ユニット⑥ 長谷川 (オンデマンド配信)
14:30					
14:50	公衆衛生学	●「色素異常症」 ユニット④ 藤原	●「角化症」 ユニット⑤ 勝見 (オンデマンド配信)	法医学	●「最近の国試 問題解説」 ユニット①～⑥ 鈴木 (オンデマンド配信)
16:20					

	2026年4月13日 月	2026年4月14日 火	2026年4月15日 水	2026年4月16日 木
8:30	法医学	病理各論Ⅱ	●「皮膚科学概説」 ユニット① 阿部	コース末試験
10:00				
10:20	法医学	病理各論Ⅱ	●「発疹学」 ユニット① 阿部	消化器系
11:50				
13:00	公衆衛生学	●「美容外科」 ユニット⑦ 原岡	●「皮膚科における Translational Medicine」 ユニット① 阿部	消化器系
14:30				
14:50	公衆衛生学	●「光線による皮膚障害」 ユニット④ 清水	●「膠原病の 皮膚病変」 ユニット⑥ 濱	消化器系
16:20				

ユニット①「皮膚科学概説、発疹学、皮膚科における Translational Medicine」

担当教室：皮膚科

到達目標：皮膚疾患の病態を理解するために必要な、皮膚の構造と機能および病的変化のメカニズムについての基本的知識を修得する。

アウトカム：

1. 正常皮膚の基本構造を図示して説明できる。
2. 表皮の構成細胞、真皮表皮境界部、真皮の構成細胞と間質要素（脈管、神経を含む）の形態と機能について説明できる。
3. 各種発疹の定義と主な修飾語について説明できる。
4. 主な病理組織変化を図示して説明し、その変化の生じる主要な皮膚疾患を列挙できる。

学習方法：

1. 2年次「人体の構造と機能Ⅰ」で学習した皮膚の構造と機能について復習する。
2. 3年次前期「統合臨床医学入門」で学習した発疹について復習する。
3. 講義「皮膚科学概説、発疹学、皮膚科における Translational Medicine」を聴講し、テストを受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

阿部 理一郎（皮膚科、2282、aberi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「アトピー性皮膚炎、薬疹、接触皮膚炎」

担当教室：皮膚科

到達目標：高頻度の皮膚疾患である湿疹・皮膚炎と蕁麻疹の病態を理解し、また、医療上重大な問題となる薬疹の基本的知識を得て、これら疾患の問題解決法の基本を修得する。

アウトカム：

1. 湿疹・皮膚炎の主な疾患を列挙し、それぞれの病態と臨床的特徴を説明できる。
2. 湿疹・皮膚炎疾患の診断に必要な検査を列挙し、その意義を簡単に説明できる。
3. 湿疹・皮膚炎疾患の治療の基本を説明できる。
4. 薬疹の主な病型を列挙し、それぞれの病態を簡単に説明できる。
5. 薬疹への対応と治療の基本を説明できる。
6. 薬疹の医療上の問題点とインフォームドコンセントの重要性を説明できる。

学習方法：

講義「アトピー性皮膚炎、薬疹、接触皮膚炎」を聴講し、テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

木村 春菜 (皮膚科、2282、haruna-57@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット③「皮膚癌・悪性黒色腫、母斑と母斑症」

担当教室：皮膚科

到達目標：主要な皮膚腫瘍、母斑・母斑症の病態と臨床を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を修得する。

アウトカム：

1. 皮膚の主な癌前駆病変を列挙し、その病態と臨床的特徴を説明できる。
2. 主な皮膚悪性腫瘍(有棘細胞癌、基底細胞癌、パジェット病、ボーエン病、メルケル細胞癌、悪性黒色腫、隆起性皮膚線維肉腫、皮膚血管肉腫など)の病態と臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
3. 主な母斑・母斑症(色素細胞母斑、表皮母斑、脂腺母斑、莓状血管腫、ポートワイン血管腫、結節性硬化症、神経線維腫症、神経皮膚黒色症、ポイツ・ジェガース症候群、色素失調症、基底細胞母斑症候群、スタージ・ウェーバー症候群、クリッペル・ウェーバー症候群など)の病態と臨床的特徴を説明できる。

学習方法：

講義「皮膚癌・悪性黒色腫、母斑と母斑症」を聴講し、テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

斎藤 勇輝 (皮膚科、2282、ysaito@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット④「光による皮膚障害、色素異常症」

担当教室：皮膚科

到達目標：主要な光による皮膚障害、色素異常症の病態と臨床を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を修得する。

アウトカム：

1. 光による皮膚障害の主要疾患を列挙し、それぞれの病態と臨床的特徴を説明できる。
2. 色素異常症、とくに脱色素性疾患(尋常性白斑など)の病態と臨床的特徴と治療の基本を説明できる。

学習方法：

講義「光による皮膚障害」「色素異常症」を聴講し、テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

鈴木 梨沙 (皮膚科、2282、lisa-s@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑤「角化症、水疱症・膿疱症、遺伝性皮膚疾患、毛髪疾患」

担当教室：皮膚科

到達目標：主要な角化症、水疱症・膿疱症、遺伝性皮膚疾患、毛髪疾患の病態や臨床的特徴と治療を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を修得する。

アウトカム：

1. 主な遺伝性角化症(魚鱗癬、ダリエー病など)の病態、臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
2. 主な炎症性角化症(乾癬、扁平苔癬、ジベルばら色秕糠疹など)の病態と臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
3. 皮膚症状を来す主な全身疾患を列挙し、それらの皮膚病変の病態と臨床的特徴を説明できる。
4. 主な自己免疫性水疱症(天疱瘡、類天疱瘡、ジューリング疱疹状皮膚炎、後天性表皮水疱症など)の病態、臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
5. 主な先天性水疱症(先天性表皮水疱症、ヘイリー・ヘイリー病など)の病態と臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
6. 主な膿疱症(掌蹠膿疱症、角層下膿疱症、壊疽性膿皮症など)の病態と臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
7. 主な遺伝性皮膚疾患や毛髪疾患の病態と臨床的特徴と治療法の基本を説明できる。

学習方法：

講義「角化症、水疱症・膿疱症、遺伝性皮膚疾患、毛髪疾患」を聴講し、小テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

長谷川 瑛人 (皮膚科、2282、hakito@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑥ 「膠原病の皮膚病変、皮膚感染症」

担当教室：皮膚科

到達目標：主要な皮膚感染症の病態、臨床的特徴と治療を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を修得する。主な膠原病にみられる皮膚病変についてその特徴を習得する。病院診療における皮膚科医の果たす役割を理解する。

アウトカム：

1. 主な膠原病（全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎など）に伴う皮膚病変について臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
2. 細菌、真菌、ウイルス、ダニなどの主な皮膚感染症（伝染性膿痂疹、せつ、よう、丹毒、白癬、皮膚カンジダ症、ウイルス性疣贅、ヘルペスウイルス感染症、伝染性軟属腫、疥癬など）の病態と臨床的特徴と治療の基本を説明できる。
3. 病院皮膚科診療における皮膚科医の役割を説明できる。

学習方法：

講義「膠原病の皮膚病変、皮膚感染症」を聴講し、テストを受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

濱 菜摘（皮膚科、2282、natsumih@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑦「レーザー・熱傷、皮膚外科、美容外科」

担当教室：形成外科

到達目標：熱傷の病態と治療の基本を修得する。皮膚レーザー治療や美容外科の対象と現状を理解する。再建外科の基本を理解する。リハビリメイクの基本を習得する。

アウトカム：

1. 熱傷の原因、重症度分類と病態を説明し、治療の基本を説明できる。
2. 皮膚外科の役割について説明できる。
3. リハビリメイクについて説明できる。
4. 美容外科について説明できる。

学習方法：

講義「熱傷」「レーザー」「美容外科」「リハビリメイク」を聴講し、小テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

若槻 華子 (形成外科、2592、h-waka@med.niigata-u.ac.jp)

コース（9）「消化器系」

担当教室：消化器内科、消化器外科、小児外科、小児科

到達目標：臨床医学の学習を円滑に行うために、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療についての基本的知識と、初歩的な問題解決能力を修得する。

ユニット：

1. 「消化器疾患総論」
2. 「食道・胃疾患」
3. 「小腸疾患・大腸非腫瘍性疾患・炎症性腸疾患」
4. 「大腸腫瘍性疾患・慢性便秘症」
5. 「胆道疾患」
6. 「膵疾患」
7. 「急性肝炎・急性肝不全・代謝性肝疾患・自己免疫性肝疾患・薬物性肝障害」
8. 「慢性肝炎・肝硬変・肝不全」
9. 「肝腫瘍」
10. 「小児内科的消化器疾患」
11. 「小児上部消化管疾患」
12. 「小児下部消化管疾患」
13. 「小児肝胆膵疾患」
14. 「原発性肝癌」
15. 「転移性肝癌」
16. 「高度医療（ゲノム医療・移植医療）」
17. 「食道疾患」
18. 「胃・GIST」
19. 「炎症性腸疾患」
20. 「大腸癌」
21. 「虫垂炎、大腸憩室症と肛門疾患」
22. 「胆道系良性疾患」
23. 「胆道癌」
24. 「膵癌・膵炎の外科治療」
25. 「急性腹症」
26. 「ヘルニア」
27. 「消化器外科総合講義」

注意事項(共通)：

1. 講義は対面型で実施する。
2. コースの最後に筆記試験を受け、評価(総括的評価)、進級判定を受ける。
筆記試験は、第3講義室で行うものとする。
3. 3分の2以上の講義出席がない場合には筆記試験を受験する資格をもたない。

臓器別統合コース:コース(9)「消化器系」時間割

	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/11	5/12	5/13	5/14
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木
8:30	法医学	病理各論Ⅱ	皮膚・形成	皮膚・形成	胃・GIST 加納陽介 ユニット18	法医学	病理各論Ⅱ	高度医療(移植 医療・ロボット支 援手術) 廣瀬雄己 ユニット16	大腸ポリー プ、慢性便 秘症 富永顕太郎 ユニット4	膵疾患 診断と治療 林和重 ユニット6	法医学	胆道疾患 診断と治療 五十嵐聡 ユニット5	(祝日)	食道悪性疾 患の診断と治 療 永山浩夫 ユニット2	肝・胆・膵 小幡聡 ユニット13	(祝日)	(祝日)	(祝日)	胃悪性疾患の診 断と治療 高橋 一也 ユニット2	虫垂炎、大腸憩 室症と肛門疾 患 中野雅人 ユニット21	法医学	病理各論Ⅱ	炎症性腸疾患 中野麻恵 ユニット19	試験
10:00																								
10:20	法医学	病理各論Ⅱ	皮膚・形成	高度医療(テノム医 療・胆系性転移性 肝癌) 若井先生 ユニット14・15・16	胃・GIST 加納陽介 ユニット18	法医学	病理各論Ⅱ	膵癌・胆炎の外 科治療 滝沢一泰 ユニット24	大腸癌の 診断と治療 富永顕太郎 ユニット4	肝不全 診断と治療 寺井崇二 ユニット8	法医学	胆道疾患 診断と治療 五十嵐聡 ユニット5	(祝日)	食道悪性疾 患の診断と治 療 永山浩夫 ユニット2	肝・胆・膵 小幡聡 ユニット13	(祝日)	(祝日)	急性ウイルス性 肝炎、急性肝不 全 神田達郎 ユニット7	ヘルニア 中野雅人 ユニット26	法医学	病理各論Ⅱ	消化器外科総 合講義 若井・廣瀬 ユニット27	試験	
11:50																								
13:00	公衆衛生	皮膚・形成	皮膚・形成	炎症性腸疾患の診 断と治療 川田雄三 ユニット3	食道疾患 市川 寛 ユニット17	公衆衛生	MAFLD・代謝 性肝疾患 坂牧 肇 ユニット7	食道 小林 隆 ユニット11	消化器疾患 総論Ⅰ 寺井崇二 ユニット1	肝臓炎・ 門亢症 診断と治療 上村博輝 ユニット8	公衆衛生	食道・胃良 性疾患の診 断と治療 佐藤裕樹 ユニット2	(祝日)	肝臓癌 診断、治療Ⅰ 上村顕也 ユニット9	ヒルシュス バルク病、直 腸肛門癌 菅井 祐 ユニット12	(祝日)	(祝日)	胆道系良性疾患 坂田 純 ユニット22	大腸癌 島田能史 ユニット20	公衆衛生	C型慢性肝 炎、肝硬変 の診断と治 療 吉田智彰 ユニット8	小児内科的消 化器疾患 1. 疝 2. 阿部 3. 羽深 ユニット10	腎・泌尿器 系	
14:30																								
14:50	公衆衛生	皮膚・形成	皮膚・形成	慢性ウイルス肝炎総 論とB型肝炎肝炎の 診断と治療 横尾 健 ユニット8	急性膵症 宗岡悠介 ユニット25	公衆衛生	膵疾患 診断と治療 Ⅰ 武田信峻 ユニット6	小腸・大腸 小林 隆 ユニット12	消化器疾患 総論Ⅱ 寺井崇二 ユニット1	肝不全の他 胆管炎、胆 石、栄養管理 ア・栗義孝 上村博輝 ユニット8	公衆衛生	薬物性肝障 害、HAE 阿部寛幸 ユニット7	(祝日)	自己免疫性 肝疾患 木村成宏 ユニット7	胃・十二指 腸 木下義晶 ユニット11	(祝日)	(祝日)	胆道癌 坂田 純 ユニット23	大腸癌 島田能史 ユニット20	公衆衛生	小腸疾患・ 大腸非腫瘍 性疾患 小島雄一 ユニット3	腎・泌尿器 系		
16:20																								

ユニット①「消化器疾患総論」

担当教員：寺井 崇二（消化器内科）

到達目標：消化器疾患の原因、病態生理、診断と治療を理解するために必要な消化器系の構造と機能、および症候と検査についての基本的知識を習得する。

アウトカム：

1. 肝の構造、肝区域、小葉構造と、門脈血管系、胆管系の構造を説明できる。
2. 肝の血管支配の特徴を説明できる。
3. 肝細胞の機能を説明できる。
4. 胆汁の生成機序を説明できる。
5. 膵の構造を説明できる。
6. 膵の内分泌機能を説明できる。
7. 膵の外分泌機能を説明できる。
8. 消化管の構造を説明できる。
9. 胃酸分泌の機序を説明できる
10. 消化、吸収の機序を説明できる。
11. 消化管運動の説明ができる。
12. 便形成の機序を説明できる。
13. 消化器疾患の症候の発生機序と原因疾患を説明できる。
14. 腹部単純レントゲン写真の意義を説明できる。
15. 腹部超音波検査の意義を説明できる。
16. 消化管内視鏡検査の意義を説明できる。

学習方法：

1. 講義「消化器疾患総論 I」（消化管関連）4月23日（木） 13:00-14:30 を聴講する。
2. 講義「消化器疾患総論 II」（肝胆膵関連）4月23日（木） 14:50-16:20 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

寺井 崇二（消化器内科、2207、terais@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「食道・胃疾患」

担当教員：佐藤 裕樹、永山 逸夫、高橋 一也（消化器内科）

到達目標：食道・胃疾患の種類、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 食道良性疾患の種類、病態を説明できる。
2. 食道機能性疾患の検査・診断法、治療法を説明できる。
3. 食道癌の肉眼分類、組織分類を説明できる。
4. 食道癌の発生、発育進展を概説できる。
5. 食道癌の症候を説明できる。
6. 食道癌の内視鏡診断を説明できる。
7. 食道癌の内視鏡治療について、適応、術式と合併症を説明できる。
8. 胃良性疾患の種類、病態を説明できる。
9. 胃癌の肉眼分類、組織分類を説明できる。
10. 胃癌の発生、発育進展を概説できる。
11. 胃癌の症候を説明できる。
12. 胃癌の内視鏡診断を説明できる。
13. 胃癌の内視鏡治療について適応と術式、合併症を説明できる。

学習方法：

1. 講義「食道・胃良性疾患の診断と治療」4月28日（火） 13:00-14:30 を聴講する。
2. 講義「食道悪性疾患の診断と治療」4月30日（木） 8:30-10:00 を聴講する。
3. 講義「胃悪性疾患の診断と治療」5月7日（木） 8:30-10:00 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

佐藤 裕樹（消化器内科、2207、pyloki-sato@med.niigata-u.ac.jp）

永山 逸夫（消化器内科、2207、inagayama@med.niigata-u.ac.jp）

高橋 一也（消化器内科、2207、kazuya911@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット③「小腸疾患・炎症性腸疾患」

担当教員：川田 雄三、小島 雄一（消化器内科）

到達目標：小腸疾患・大腸非腫瘍性疾患・炎症性腸疾患の病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 小腸の解剖と機能を説明できる。
2. 小腸疾患に対する検査法、診断法を説明できる。
3. 小腸疾患の種類、特徴、病態を説明できる。
4. 大腸非腫瘍性疾患の種類、病態を説明できる。
5. 炎症性腸疾患の分類、病態を説明できる。
6. 潰瘍性大腸炎の症候、診断と治療を説明できる。
7. クロウン病の症候、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小腸疾患・大腸非腫瘍性疾患」5月12日（火） 14:50-16:20 を聴講する。
2. 講義「炎症性腸疾患の診断・治療」4月16日（木） 13:00-14:30 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

川田 雄三（消化器内科、2207、yuzok@med.niigata-u.ac.jp）

小島 雄一（消化器内科、2207、y-kojima@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット④「大腸腫瘍性疾患」

担当教員：富永顕太郎（消化器内科）

到達目標：大腸腫瘍性疾患の種類、病態生理、診断と治療および慢性便秘症について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 大腸ポリープおよびポリポーシスの分類を説明できる。
2. 大腸癌の肉眼分類と組織分類を説明できる。
3. 大腸癌の発生と発育進展を概説できる。
4. 大腸癌の症候を説明できる。
5. 大腸癌の内視鏡診断を説明できる。
6. 大腸癌の内視鏡治療の適応、術式と合併症を説明できる。
7. 慢性便秘症の分類、機序、治療について説明できる。

学習方法：

1. 講義「大腸ポリープ、慢性便秘症」4月23日（木） 8:30-10:00 を聴講する。
2. 講義「大腸癌の診断と治療」4月23日（木） 10:20-11:50 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

富永顕太郎（消化器内科、2207、k-tominaga@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑤「胆道疾患」

担当教員：五十嵐 聡（消化器内科）

到達目標：胆石・胆道癌の種類、病態、診断と治療について理解し、これら疾患の予防・早期発見の基本的な事項を修得する。

アウトカム：

1. 血液・生化学検査データの解読し、病態を説明できる。
2. 腫瘍マーカーを解読できる。
3. 腹部単純X P 所見を評価できる。
4. 腹部画像診断(US、CT、MRI)の読影ができる。
5. MRCP、ERCP 像を読影できる。
6. 胆嚢胆石、総胆管結石の臨床的差異と急性腹症としての位置付けと合併症を説明できる。
7. 胆嚢・胆管癌の診断と鑑別すべき疾患を説明できる。
8. 閉塞性黄疸をきたす疾患と鑑別を説明できる。
9. 閉塞性黄疸の内科的治療法を説明できる。

学習方法：

1. 講義「胆道疾患 診断と治療 I」4月28日（火） 8:30-10:00 を聴講する。
2. 講義「胆道疾患 診断と治療 II」4月28日（火） 10:20-11:50 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

五十嵐 聡（消化器内科、2207、s-ikarashi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑥「膵疾患」

担当教員：武田信峻、林 和直（消化器内科）

到達目標：膵臓の炎症の種類、病態、診断と治療、および急性腹症としての位置付けを理解するとともに、膵腫瘍の種類、病態、診断と治療について理解し、これら疾患の問題解決法の基本的な事項を習得する。

アウトカム：

1. 血液・生化学検査データを解読し、膵疾患の病態を説明できる。
2. 腹部単純X線検査の所見を評価できる。
3. 腹部画像診断(US、CT、MRI)の読影ができる。
4. MRCP、ERCP 像を読影できる。
5. 急性膵炎の診断、治療と予後を説明できる。
6. 自己免疫性膵炎の診断と治療を説明できる。
7. 慢性膵炎の診断、治療と予後を説明できる。
8. 膵腫瘍の種類と病態および診断を説明できる。
9. 通常型膵癌のリスク因子と近年の動向、および病態を説明できる。
10. 通常型膵癌の診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「膵疾患 診断と治療 I」4月21日（火） 14:50-16:20 を聴講する。
2. 講義「膵疾患 診断と治療 II」4月24日（金） 8:30-10:00 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

武田 信峻（消化器内科、2207、ntakeda@med.niigata-u.ac.jp）

林 和直（消化器内科、2207、khayashi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑦「急性肝炎・急性肝不全・MASLD/MASH・代謝性肝疾患・自己免疫性肝疾患・薬物性肝障害」

担当教員：木村 成宏、阿部 寛幸、坂牧 僚、神田 達郎（消化器内科）

到達目標：急性ウイルス性肝炎、MASLD/MASH、代謝性肝疾患、薬物による肝障害、および自己免疫の関与した肝疾患の種類、病態、診断と治療について理解し、これら疾患の予防・問題解決の基本的な事項を修得する。

アウトカム：

1. 血液・生化学検査データの解読し、病態を説明できる。
2. 肝炎ウイルス関連マーカーの解読・意義を説明できる。
3. 自己抗体の評価・意義を説明できる。
4. 腹部画像診断(US、CT、MRI)の読影ができる。
5. ウイルス肝炎の疫学、感染様式と予防処置を説明できる。
6. 急性ウイルス肝炎の種類、鑑別、治療を説明できる。
7. 重症肝炎および急性肝不全の診断と治療を説明できる。
8. 急性ウイルス性肝炎、急性肝不全の予後を説明できる。
9. アルコール性肝疾患の分類と予後を説明できる。
10. MASLD/MASH の病態と治療を説明できる。
11. 代謝性肝疾患の種類と診断・治療を説明できる。
12. 原発性胆汁性胆管炎の診断と治療を説明できる。
13. 原発性硬化性胆管炎の診断と治療を説明できる。
14. 自己免疫性肝炎の診断と治療を説明できる。
15. 自己免疫の関与した肝疾患とその合併症を説明できる。
16. 薬物性肝障害・免疫関連有害事象(irAE)による肝障害の診断と治療の分類と予後を説明できる。

学習方法：

1. 講義「急性ウイルス性肝炎・急性肝不全」5月7日（木） 10:20-11:50 を聴講する。
2. 講義「MASLD/MASH・代謝性肝疾患・アルコール性肝疾患・その他の代謝性肝疾患」4月21日（火） 13:00-14:30 を聴講する。
3. 講義「自己免疫性肝疾患」4月30日（木） 14:50-16:20 を聴講する。
4. 講義「薬物性肝障害・irAE」4月28日（火） 14:50-16:20 を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

木村 成宏（消化器内科、2207、Nkimura@med.niigata-u.ac.jp）

阿部 寛幸（消化器内科、2207、hiroyukiabe@med.niigata-u.ac.jp）

坂牧 僚（消化器内科、2207、saka-a@med.niigata-u.ac.jp）

神田 達郎（消化器内科、2207、kandatatsuo@gmail.com）

ユニット⑧「慢性肝炎・肝硬変・肝不全」

担当教員：寺井 崇二、上村博輝、横尾健、吉田 智彰（消化器内科）

到達目標：慢性肝炎から肝硬変への進展、病態、診断と治療、合併症の予防や対応の基本的な事項を理解する。

アウトカム：

1. 血液・生化学検査データの解読し、病態を説明できる。
2. 肝炎ウイルス関連マーカーを解読できる。
3. 腹腔鏡像を読影できる。
4. 慢性肝炎の進展様式を説明できる。
5. 慢性ウイルス肝炎の内科治療と食事療法を説明できる。
6. 肝硬変の重症度分類、予後、内科的治療と食事療法を説明できる。
7. ウイルス性肝硬変とアルコール性肝硬変の相違点を説明できる。
8. 門脈圧亢進症をきたす疾患の種類、病態と鑑別を説明できる。
9. 門脈圧亢進症の側副血行路を説明できる。
10. 胃・食道静脈瘤の内視鏡診断ができる。
11. 胃・食道静脈瘤破裂や肝不全に対する対応を説明できる。
12. 肝硬変における肝性脳症、肝肺症候群、肝腎症候群の病態と診断、治療法を説明できる。
13. 肝硬変における栄養管理について理解し、説明できる。
14. 肝疾患・消化器疾患におけるサルコペニアとその原理・対策について理解できる。
15. 肝硬変と運動療法について理解し、説明できる。

学習方法：

1. 講義「慢性ウイルス肝炎総論とB型慢性肝炎の診断と治療」4月16日（木） 14:50-16:20を聴講する。
2. 講義「C型慢性肝炎・肝硬変の診断と治療」5月12日（火） 13:00-14:30を聴講する。
3. 講義「肝硬変、門亢症 診断と治療」4月24日（金） 13:00-14:30を聴講する。
4. 講義「肝不全 診断と治療」4月24日（金） 10:20-11:50を聴講する。
5. 講義「肝不全における他臓器合併症と栄養管理」4月24日（金） 14:50-16:20を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

寺井 崇二（消化器内科、2207、terais@med.niigata-u.ac.jp）

上村 博輝（消化器内科、2207、hiroteruk@med.niigata-u.ac.jp）

横尾 健（消化器内科、2207、t-yokoo@med.niigata-u.ac.jp）

吉田 智彰（消化器内科、2207、sunship@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑨「肝腫瘍」

担当教員：上村 顕也、弥久保 俊太（消化器内科）

到達目標：多様な肝腫瘍について知識を深め、肝硬変から肝癌への進展、リスクファクター、病態、診断と治療について理解する。

アウトカム：

1. 血液・生化学検査データの解読し、病態を説明できる。
2. 肝炎ウイルス関連マーカーを解読できる。
3. 腫瘍マーカーを解読できる。
4. 腹部単純X P所見を評価できる。
5. 腹腔鏡像を読影できる。
6. 腹部画像診断(US、CT、MRI)の読影ができる。
7. 血管造影像を読影できる。
8. 肝細胞癌の診断と治療を説明できる。
9. 肝細胞癌の鑑別診断について理解できる。
10. 肝細胞癌以外の肝臓に発生する多様な腫瘍について説明できる。

学習方法：

1. 講義「肝腫瘍 診断・治療 I (肝細胞癌)」4月30日(木) 13:00-14:30を聴講する。
2. 講義「肝腫瘍 診断・治療 II」4月30日(木) 10:20-11:50を聴講する。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

上村 顕也 (消化器内科、2207、kenya-k@med.niigata-u.ac.jp)

弥久保 俊太 (消化器内科、2207、happy7line@gmail.com)

ユニット ⑩「小児内科的消化器疾患」

担当教員：庄司 圭介、阿部 忠朗（小児科）

到達目標：嘔吐を呈する小児内科疾患、腹痛を呈する小児内科疾患、黄疸を呈する小児内科疾患の病態生理、診断と治療、鑑別診断を理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 嘔吐を主訴とする代表的な小児内科疾患を列挙し、症候、診断と治療、鑑別診断を説明できる。
2. 腹痛を主訴とする代表的な小児内科疾患を列挙し、症候、診断と治療、鑑別診断を説明できる。
3. 黄疸を主訴とする代表的な小児内科疾患を列挙し、症候、診断と治療、鑑別診断を説明できる。

学習方法：

5月13日（水）13:00-16:20

1. 講義「嘔吐を呈する小児内科疾患」、「腹痛を呈する小児内科疾患」、「黄疸を呈する小児内科疾患」を聴講する。
2. コースの最後に筆記試験を受け、評価を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

庄司 圭介（小児科、2222、keisukekun1206@yahoo.co.jp）

阿部 忠朗（小児科、2222、abe@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑩「小児上部消化管疾患」 (GI-1, 2)

担当教員：木下 義晶、小林 隆 (小児外科)

到達目標：小児期の代表的上部消化管疾患について、新生児・小児期における消化器症候の特徴、それぞれの臓器における疾患の病態生理、診断と治療法を理解し、これらに対する問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

- 食道疾患（先天性食道閉鎖症、先天性食道狭窄症、食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症）を理解する。
- 食道閉鎖症の疫学、病態生理、診断治療法を列挙できる。
- 胃・十二指腸疾患（新生児胃破裂・穿孔、肥厚性幽門狭窄症、先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症）の病態生理、診断治療法を列挙できる。

学習方法：と**注意事項**：

4月23日（水）13：00-14：30、5月2日（金）14:50-16：20

- 講義「食道」を聴講する。
- 講義「胃・十二指腸」を聴講する。
- 小児外科学テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

木下 義晶 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

小林 隆 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑫「小児下部消化管疾患」(GI-3, 4)

担当教員：小林 隆、菅井 佑 (小児外科)

到達目標：小児期の代表的な小腸・大腸疾患、ヒルシュスプルング病・直腸肛門奇形を中心に疾患の病態生理、診断と治療法を理解し、これらに対する問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

- 先天性小腸閉鎖症・狭窄症、腸回転異常症・中腸軸捻転、壊死性腸炎、腸重積症、メッケル憩室、腸管重複症、急性虫垂炎を理解できる。
- ヒルシュスプルング病の疫学、病態生理、診断治療法を列挙できる。
- 直腸肛門奇形の病態生理、診断治療法を列挙できる。

学習方法と注意事項：

4月23日(水) 14:50-16:20、5月2日(金) 13:00-14:30

- 講義「小腸・大腸」を聴講する。
- 講義「ヒルシュスプルング病・直腸肛門奇形」を聴講する。
- 小児外科学テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

小林 隆 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

菅井 佑 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑬「小児肝胆膵疾患」(GI-5, 6)

担当教員：小幡 聡 (小児外科)

到達目標：小児期の代表的肝胆道疾患である胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症を中心に、それらの病態生理、診断と治療法を理解し、これらに対する問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

- 胆道閉鎖症の疫学、病態生理、診断治療法を列挙できる。
- 胆道閉鎖症の術後遠隔期における問題点を列挙できる。
- 先天性胆道拡張症の病態生理、診断治療法を列挙できる。
- その他の小児の肝胆膵・門脈・脾疾患の種類やそれらの病態生理、診断治療法の要点を列挙できる。
- 肝移植の適応・方法・合併症の要点を列挙できる。

学習方法と注意事項：

5月2日 (金) 8：30-10：00、10：20-11：50

- 講義「肝・胆・膵」を聴講する。
- 講義「門脈・脾、肝移植」を聴講する。
- 小児外科学テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：(所属、内線)

小幡 聡 (小児外科、2258、pedsueg@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑭「原発性肝癌」

担当教員：若井 俊文（消化器・一般外科）

到達目標：原発性肝癌の代表である肝細胞癌と肝内胆管癌についてその概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 肝臓の解剖、術式との関連を理解する。
2. 肝細胞癌の診断方法、治療アルゴリズムを理解し説明できる。
3. 肝内胆管癌の疫学、診断法、治療法を説明できる。

学習方法と注意事項：

4月16日（木）10:20-11:50

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「原発性肝癌に対する外科治療」を聴講する。
4. 「原発性肝癌 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

若井 俊文（消化器・一般外科、2228、wakait@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑮「転移性肝癌」

担当教員：若井 俊文（消化器・一般外科）

到達目標：転移性肝癌に関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 大腸癌肝転移に対する外科的切除を含む治療方針を理解し説明できる。
2. 大腸癌肝転移以外の転移性肝腫瘍に対する治療の考え方を理解し説明できる。

学習方法と注意事項：

4月16日（木）8:30-10:00

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「転移性肝癌に対する外科治療」を聴講する。
4. 「転移性肝癌に対する外科治療 Q&A・臨床問題」に解答する
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

若井 俊文（消化器・一般外科、2228、wakait@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑩「高度医療（ゲノム医療・移植医療・ロボット支援手術）」

担当教員：若井 俊文（消化器・一般外科）、廣瀬 雄己（消化器・一般外科）

1. **到達目標：**がんを対象としたゲノム医療の概要や今後の課題を理解する。肝移植、膵移植の適応と実際の移植医療について理解する。ロボット支援膵切除術の適応と意義を理解する。

アウトカム：

2. がんゲノム医療の概要を理解し説明できる。
3. がんゲノム医療におけるがん遺伝子パネル検査の流れと注意点を理解し説明できる。
4. がんゲノム医療の今後の課題を理解し説明できる。
5. 肝移植の適応を理解し移植医療全般について説明できる。
6. 膵移植の適応を理解し移植医療全般について説明できる。
7. ロボット支援膵切除術の適応と意義を理解し説明できる。

学習方法と注意事項：

4月16日（木）8:30-10:00、4月22日（水）8:30-10:00

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「高度医療（ゲノム医療・移植医療・ロボット支援手術）」を聴講する。
4. 「高度医療（ゲノム医療・移植医療・ロボット支援手術）Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

若井 俊文（消化器・一般外科、2228、wakait@med.niigata-u.ac.jp）

廣瀬 雄己（消化器・一般外科、2228、y-hirose@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑰「食道疾患」

担当教員：市川 寛（消化器・一般外科）

到達目標：食道の解剖学的特徴、主な食道良性および悪性疾患に関する概念、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 食道の解剖学的特徴について理解する。
2. 代表的な機能的食道疾患、器質的食道疾患の診断法と治療について説明できる。
3. 代表的な食道の救急疾患の診断法と治療について説明できる。
4. 食道癌の疫学と診断法について理解し説明できる。
5. 食道癌の治療について理解し説明できる。
6. 食道癌の外科治療、および術後の経過や合併症について理解し説明できる。

学習方法と注意事項：

4月17日（金）13:00-14:30

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「食道疾患」を聴講する。
4. 「食道疾患 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

市川 寛（消化器・一般外科、2228、hichikawa-nii@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑱「胃・GIST」

担当教員：加納 陽介（消化器・一般外科）

到達目標：胃潰瘍、胃癌、胃悪性リンパ腫、胃カルチノイド、GISTに関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 胃の解剖学的特徴について理解し説明できる。
2. 胃潰瘍の診断法と治療法について理解し説明できる。
3. 胃癌の病態、疫学、診断法および治療法について理解し説明できる。
4. 胃癌の外科治療、および術後の経過について理解し説明できる。
5. 症例に応じた胃癌の治療計画を立てることができる。
6. 胃悪性リンパ腫、胃カルチノイドの診断法と治療法について理解し説明できる。
7. GISTの特徴、診断法と治療法について理解し説明できる。

学習方法と注意事項：

4月17日（金）8:30-10:00、10:20-11:50

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「胃・GIST 1」、「胃・GIST 2」を聴講する。
4. 「胃・GIST Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

加納 陽介（消化器・一般外科、2228、y-kano@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑱「炎症性腸疾患」

担当教員：中野 麻恵（消化器・一般外科）

到達目標：炎症性腸疾患に関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 潰瘍性大腸炎の診断基準、診断法を理解し説明できる。
2. 潰瘍性大腸炎の内科的治療、外科的治療（適応、術式、回腸嚢炎）を理解し説明できる。
3. Crohn 病の診断基準、診断法を理解し説明できる。
4. Crohn 病の内科的治療、外科的治療（適応、術式）を理解し説明できる。
5. 短腸症候群について病態を理解し説明できる。

学習方法と注意事項：

5月13日（木）8:30-10:00

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「炎症性腸疾患」を聴講する。
4. 「炎症性腸疾患 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

中野 麻恵（消化器・一般外科、2228、fushiki@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑩「大腸癌」

担当教員：島田 能史（消化器・一般外科）

到達目標：大腸癌に関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 大腸の解剖を説明できる。
2. 大腸癌の疫学、発癌メカニズム、診断法、進行度を説明できる。
3. 大腸癌の治療を説明できる。
4. 大腸癌の外科治療を理解し、説明できる。
5. 症例に応じた大腸癌の治療計画を立てることができる。

学習方法と注意事項：

5月8日（金）13:00-14:30、14:50-16:20

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「大腸癌 1」、「大腸癌 2」を聴講する。
4. 「大腸癌の外科治療 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

島田 能史（消化器・一般外科、2228、shimaday@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「虫垂炎、大腸憩室症と肛門疾患」

担当教員：中野 雅人（消化器・一般外科）

到達目標：虫垂炎、大腸憩室症、肛門疾患に関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 虫垂炎の症候、診断、治療を説明できる。
2. 大腸憩室症（大腸憩室炎と大腸憩室出血）を概説できる。
3. 肛門疾患の病態生理、症候と診断を説明できる。

学習方法と注意事項：

5月8日（金）8:30-10:00

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「虫垂炎、大腸憩室症と肛門疾患」を聴講する。
4. 「虫垂炎、大腸憩室症と肛門疾患 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

中野 雅人（消化器・一般外科、2228、masatona@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「胆道系良性疾患」

担当教員：坂田 純（消化器・一般外科）

到達目標：胆道系良性疾患に関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 胆石症、胆道炎症の診断と治療について理解し説明できる。
2. その他の胆道良性隆起性病変の特徴と診断法、治療法を説明できる。

学習方法と注意事項：

5月7日（木）13:00-14:30

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「胆道系良性疾患」を聴講する。
4. 「胆道系良性疾患 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

坂田 純（消化器・一般外科、2228、jsakata2@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑳「胆道癌」

担当教員：坂田 純（消化器・一般外科）

到達目標：胆道癌に関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 胆道癌の病態、疫学、診断法を説明できる。
2. 胆道癌に対する外科的切除を含む治療方針を理解し説明できる。

学習方法と注意事項：

5月7日（木）14:50-16:20

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「胆道癌に対する外科治療」を聴講する。
4. 「胆道癌に対する外科治療 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

坂田 純（消化器・一般外科、2228、jsakata2@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②④「膵癌・膵炎の外科治療」

担当教員：滝沢 一泰（消化器・一般外科）

到達目標：膵悪性疾患、良性疾患に関する診断、概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 膵癌の病理所見、症候、診断と治療を説明できる。
2. 膵癌の外科治療の適応を理解し術式について説明できる。
3. 嚢胞性膵腫瘍の分類と病理所見を説明できる。
4. 急性膵炎の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
5. 慢性膵炎の病態生理、症候、診断、合併症と治療を説明できる。

学習方法と注意事項：

4月22日（水）10:20-11:50

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「膵癌・膵炎の外科治療」を聴講する。
4. 「膵癌・膵炎の外科治療 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

滝沢 一泰（消化器・一般外科、2228、takik@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑫「急性腹症」

担当教員：宗岡 悠介（消化器・一般外科）

到達目標：急性腹症の概念、代表的な疾患、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 急性腹症の概念、病態生理を説明できる。
2. 急性腹症の身体所見や検査所見を理解し、診断方法を説明できる。
3. 急性腹症に含まれる代表的な疾患を理解し、診断方法と治療を説明できる。

学習方法と注意事項：

4月17日（金）14:50-16:20

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「急性腹症」を聴講する。
4. 「急性腹症 Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

宗岡 悠介（消化器・一般外科、2228、yusukem1986@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②⑥「ヘルニア」

担当教員：中野 雅人（消化器・一般外科）

到達目標：ヘルニアに関する概念、解剖学的特徴、疫学、診断方法、治療方法、治療成績を理解し、治療計画の立案法の基礎を習得する。

アウトカム：

1. ヘルニアの概念、病態（滑脱、嵌頓、絞扼）と好発部位を説明できる。
2. 鼠径部ヘルニアの病因、病態、診断と治療法について説明できる。

学習方法と注意事項：

5月8日（金）10:20-11:50

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「ヘルニア」を聴講する。
4. 「ヘルニア Q&A・臨床問題」に解答する。
5. 解答の自己採点を行い、講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

中野 雅人（消化器・一般外科、2228、masatona@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑦「消化器外科総合講義」

担当教員：若井 俊文（消化器・一般外科）、廣瀬 雄己（消化器・一般外科）

到達目標：医師国家試験を見据え、医学部在籍中に消化器外科で学ぶべきことを習得する。

アウトカム：

1. 近年の国家試験の傾向を理解し、特に消化器外科領域において重要な点を説明できる。

学習方法と注意事項：

5月13日（水）10:20-11:50

1. 授業を聴講する際の共通注意事項を順守する。遅刻、欠席が多い場合には不合格と判定されるので留意すること。
2. 講義時に配布する消化器・一般外科テキストを参照する。
3. 講義「消化器外科総合講義」を聴講する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

若井 俊文（消化器・一般外科、2228、wakait@med.niigata-u.ac.jp）

廣瀬 雄己（消化器・一般外科、2228、y-hirose@med.niigata-u.ac.jp）

コース（10）「腎・泌尿器系」

担当：腎・膠原病内科、泌尿器科、小児科、血液浄化療法部

到達目標：腎・尿路系の構造と機能を理解し、腎・尿器系疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療についての基礎的知識と初歩的な問題解決能力を習得する。

ユニット

- ①「腎・泌尿器疾患総論（腎・泌尿器の構造、機能、症候と検査）」
- ②「糸球体腎炎/高血圧/二次性腎障害/全身疾患に伴う腎障害」
- ③「腎不全/電解質・酸塩基平衡異常/尿細管間質疾患」
- ④「尿路疾患」
- ⑤「小児科領域の腎疾患」
- ⑥「利尿薬・腎疾患の薬理学」

学習方法：

1. 腎・泌尿器疾患を網羅する各項目について講義を聴講する。
2. 症例学習：担当教員が症例問題を提示する。解答後に担当教員が概説する。なお、泌尿器科疾患については、症例学習は施行しない。
3. ユニット①～⑥について、コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

臓器別統合コース：コース(10)「腎・泌尿器系」第1週 時間割

	5月11日 月	5月12日 火	5月13日 水	5月14日 木	5月15日 金
8:30					
9:30	法医学	病理各論Ⅱ	消化器系	消化器系	③-4)講義 「腎不全1」 山本 卓
9:40					
10:40					
10:50					
11:50					
13:00					
14:00	公衆衛生学	消化器系	消化器系	①-1)講義 「腎臓病学総論」 山本 卓	①-4)講義 「腎の機能」 若松 拓也
14:10					
15:10					
15:20					
16:20					

臓器別統合コース：コース(10)「腎・泌尿器系」第2週 時間割

5月18日 月	5月19日 火	5月20日 水	5月21日 木	5月22日 金	
8:30	法医学	②-1) 講義 「糸球体疾患 1」 伊藤 由美	③-1) 講義 「酸塩基平衡 1」 倅田 亮平	③-6) 内科系症例学習3 倅田 亮平	
9:30		②-1) 講義 「糸球体疾患 2」 伊藤 由美	③-1) 講義 「酸塩基平衡 2」 倅田 亮平	②-2) 講義 「高血圧・二次性腎疾患 2」 倅田 亮平	
9:40		②-1) 講義 「糸球体疾患 3」 伊藤 由美	③-6) 内科系症例学習2 倅田 亮平	③-6) 内科系症例学習4 若松 拓也	
10:40		病理各論 II			
10:50					
11:50					
13:00	公衆衛生学	②-1) 講義 「糸球体疾患 4」 伊藤 由美	⑥-3) 講義 「薬剤性腎障害」 金子 佳賢	③-2) 講義 「尿管・間質疾患 1」 竹田 徹朗 (小テスト)	
14:00		②-2) 講義 「高血圧・二次性腎疾患 1」 大塚 忠司	③-5) 講義 「電解質異常 2」 金子 佳賢	③-2) 講義 「尿管・間質疾患 2」 竹田 徹朗	
14:10		⑥-1) 講義 「RAS阻害薬」 大塚 忠司	②-3) 講義 「糖尿病性腎症」 蒲澤 佳子	③-5) 講義 「電解質異常 3」 金子 佳賢	
15:10		③-5) 講義 「電解質異常 1」 山本 卓	②-6) 内科系症例学習1 蒲澤 佳子	③-2) 講義 「尿管・間質疾患 3」 竹田 徹朗 (小テスト)	
15:20					
16:20					

臓器別統合コース：コース(10)「腎・泌尿器系」【第3週】時間割

5月25日 月	5月26日 火	5月27日 水	5月28日 木	5月29日 金		
8:30	病理各論Ⅱ 多職種連携	①-2) 講義 「利尿薬・SGLT2阻害薬」 渡辺 博文	法医学	④ 講義 各論(3) 内分泌 安楽		
9:30		②-5) 講義 「遺伝性腎疾患」 渡辺 博文		④ 講義 各論(4) 腎尿路結石① 安楽		
9:40		②-6) 内科系症例学習6 渡辺 博文		④ 講義 各論(5) 腎尿路結石② 安楽		
10:40	公衆衛生学	④ 講義 総論(1) Intro-duction 齋藤	④ 講義 各論(1) 排尿障害① 小原	④ 講義 各論(6) 尿路感染症① 星井		
10:50					④ 講義 総論(2) 検査 齋藤	④ 講義 各論(7) 尿路感染症② 星井
11:50					④ 講義 総論(3) 画像診断① 齋藤	④ 講義 各論(8) 前立腺肥大症 星井
13:00	②-6) 内科系症例学習5 大塚 忠司	④ 講義 総論(4) 画像診断② 齋藤	④ 講義 各論(2) 排尿障害② 小原	④ 講義 各論(7) 尿路感染症② 星井		
14:00	⑤ 講義 「糸球体腎炎、 尿管間質疾患(小児科)」 山田 剛史				④ 講義 各論(7) 尿路感染症② 星井	
14:10	②-4) 講義 「膠原病に伴う腎疾患」 小林 大介				④ 講義 各論(8) 前立腺肥大症 星井	
15:10						
15:20						
16:20						

臓器別統合コース：コース(10)「腎・泌尿器系」第4週 時間割

	6月1日 月	6月2日 火	6月3日 水	6月4日 木	6月5日 金	
8:30	病理各論Ⅱ	多職種連携	④講義 各論(12) 外傷救急① 齋藤	法医学	④講義 各論(21) 精巣腫瘍① 大澤	
9:30			④講義 各論(13) 外傷救急② 齋藤		④講義 各論(22) 精巣腫瘍② 大澤	
9:40			④講義 各論(14) 尿路上皮 腫瘍① 大澤		④講義 各論(23) 腎不全② 田崎	
10:40	公衆衛生学		④講義 各論(15) 尿路上皮腫瘍② 大澤			
10:50			④講義 各論(9) 腎腫瘍① 大澤			④講義 各論(18) 前立腺癌① 石崎
11:50			④講義 各論(10) 腎腫瘍② 大澤			④講義 各論(19) 前立腺癌② 石崎
13:00			④講義 各論(17) 小児泌尿器② 小原		④講義 各論(24) 腎移植① 田崎	
14:00			④講義 各論(11) 男性学 石崎		④講義 各論(25) 腎移植② 田崎	
14:10			④講義		④講義 泌尿器系 本試験 15:20~16:20	
15:10						
15:20						
16:20						

臓器別統合コース：コース(10)「腎・泌尿器系」 「第5週」 時間割

	6月8日 月	6月9日 火	6月10日 水	6月11日 木	6月12日 金
8:30	法医学	病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
9:30					
9:40					
10:40	公衆衛生学	内科系 本試験 13:00～14:30	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:50					
11:50					
13:00					
14:00					
14:10					
15:10		生殖・発達系			
15:20					
16:20					

ユニット①「腎・泌尿器疾患総論（腎・泌尿器の構造、機能、症候と検査）」

担当教員：腎・膠原病内科（山本卓、若松拓也）、血液浄化療法部（大塚忠司）

到達目標：腎・泌尿器疾患の原因、病態生理、診断と治療を理解するために必要な、腎・泌尿器系の構造と機能、および症候と検査についての基本的知識を習得する。

アウトカム：

1. 腎・尿路系の位置・形態・構造と血管分布・神経支配が説明できる。
2. 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。
3. 腎糸球体における濾過の機序を説明できる。
4. 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。
5. 腎に作用するホルモン・血管作動性物質の作用を説明できる。
6. 血尿、蛋白尿、浮腫、尿量・排尿の異常の発生機序と原因疾患を説明できる。
7. 尿検査、腎疾患に関係する免疫血清学的検査、腎機能（特に糸球体濾過値）を測定する検査、尿細管機能検査、動脈血ガス分析の意義を説明できる。
8. 腎生検の適応と禁忌を説明できる。

学習方法：

1. 2年次の「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」で学習した腎・泌尿器の構造と機能について復習する。
2. 3年次前期の「統合臨床医学コース（臨床医学入門）」で学習した腎・泌尿器疾患の症候と臨床検査、画像検査について復習する。
3. ①-1)講義「腎臓病学総論」を聴講する。
4. ①-2)講義「腎の構造」を聴講する。
5. ①-3)講義「腎の生理1, 2」を聴講する。
6. ①-4)講義「腎の機能」を聴講する。
7. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

山本 卓（腎・膠原病内科、2192、yamamots@med.niigata-u.ac.jp）

大塚 忠司（血液浄化療法部、2771、totogoal1230@gmail.com）

若松 拓也（腎・膠原病内科、2200、tkywakamatsu@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「糸球体疾患/高血圧/二次性腎障害」

担当教員：腎・膠原病内科（伊藤由美、小林大介、俣田亮平、蒲澤佳子、渡辺博文）、血液浄化療法部（大塚忠司）

到達目標：糸球体腎炎、高血圧症、血管障害、遺伝性腎疾患、全身性疾患に伴う腎障害の患者について、病態生理を理解し、診断と治療法、問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 糸球体疾患の病態生理（病因、発症機序、進展機序）、蛋白尿の成因について説明できる。
2. 糸球体疾患の症候、検査所見、臨床症候分類、形態分類を説明できる。
3. 主要な糸球体疾患について、原因、症候、診断、治療、予後を説明できる。
4. ネフローゼ症候群の原因、症候、診断、治療を説明できる。
5. 高血圧症、腎硬化症の定義、診断基準、病態生理、症候、検査、治療を説明できる。
6. 血管障害の種類、病態生理、検査、治療を説明できる。
7. 痛風腎、骨髄腫腎、アミロイド腎症の原因、症候、診断と治療を説明できる。
8. 膠原病に伴う腎疾患、糖尿病性腎症、遺伝性腎疾患を説明できる。

学習方法：

1. ②-1) 講義「糸球体疾患 1 - 4」を聴講する。
2. ②-2) 講義「高血圧・二次性腎障害 1, 2」を聴講する。
3. ②-3) 講義「糖尿病性腎症」を聴講する。
4. ②-4) 講義「膠原病に伴う腎疾患」を聴講する。
5. ②-5) 講義「遺伝性腎疾患」を聴講する。
6. ②-6) 内科系症例学習 3 - 5：担当教員が症例問題を提示後、教員と質疑応答を行い、症例問題の解説を聴講する。
7. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

伊藤 由美（腎・膠原病内科、2200、yumii@med.niigata-u.ac.jp）

小林 大介（腎・膠原病内科、2200、joifa602@hotmail.com）

俣田 亮平（腎・膠原病内科、2200、ryoheitk@med.niigata-u.ac.jp）

蒲澤 佳子（腎・膠原病内科、2200、keikokk@med.niigata-u.ac.jp）

大塚 忠司（血液浄化療法部、2771、totogoal1230@gmail.com）

渡辺 博文（腎・膠原病内科、2200、watanabeh@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット③「腎不全/電解質・酸塩基異常/尿細管間質疾患」

担当教員：腎・膠原病内科（山本卓、倅田亮平、渡辺博文、若松拓也）、保健学科（金子佳賢）、獨協医科大学（竹田徹朗）

到達目標：腎不全、電解質異常、酸塩基平衡異常、尿細管機能異常、間質性腎疾患について、種類、原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 急性・慢性腎不全の原因、症候、診断と治療を説明できる。
2. 腎不全の透析療法を説明できる。
3. 尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。
4. Fanconi 症候群の概念、症候と診断を説明できる。
5. 急性・慢性間質性腎炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。
6. 腎性尿崩症の原因、症候、診断と治療を説明できる。
7. 各種電解質異常症、酸塩基平衡異常を概説できる。
8. 輸液療法の基本を説明できる。

学習方法：

1. ③-1) 講義「酸塩基平衡異常 1, 2」を聴講する。
2. ③-2) 講義「尿細管・間質疾患 1-3」を聴講する。尿細管・間質疾患総論および各論の最後に、それぞれ小テストを受験し、回答を提出する。
3. ③-3) 講義「輸液の基本」を聴講する。
4. ③-4) 講義「腎不全 1-3」を聴講する。
5. ③-5) 講義「電解質異常 1-3」を聴講する。
6. ③-6) 内科系症例学習 1, 2, 6：担当教員が症例問題を提示後、教員と質疑応答を行い、症例問題の解説を聴講する。
7. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

竹田 徹朗（獨協医科大学埼玉医療センター腎臓内科、ttak@dokkyomed.ac.jp）

金子 佳賢（保健学科、2200、kanekoy@med.niigata-u.ac.jp）

山本 卓（腎・膠原病内科、2192、yamamots@med.niigata-u.ac.jp）

倅田 亮平（腎・膠原病内科、2200、ryoheik@med.niigata-u.ac.jp）

渡辺 博文（腎・膠原病内科、2200、watanabeh@med.niigata-u.ac.jp）

若松 拓也（腎・膠原病内科、2200、tkywakamatsu@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット④「尿路疾患」

担当教員：泌尿器科（大澤崇宏 教授）

（大澤崇宏、齋藤和英、小原健司、星井達彦、田崎正行、石崎文雄、安樂 力）

到達目標：尿路疾患の種類、原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 蓄排尿の機序を説明できる。
2. 腹部、腰部、骨盤部、生殖器の診察で確認できる項目を列挙し、視診、打診、触診と聴診ができる。
3. 腎・尿路系の画像診断（エックス線、超音波、腎盂造影、排泄性膀胱造影、CT、MRI、核医学検査、腎血管造影）を概説できる。
4. 尿流動態検査の意義を説明できる。
5. 膀胱鏡、尿管鏡検査の意義を説明できる。
6. 尿路結石の成因、症候、診断と治療を説明できる。
7. 尿路の炎症（腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿道炎）の成因、診断と治療を説明できる。
8. 神経因性膀胱の症候、診断、治療を説明できる。
9. 尿路先天性・後天性異常の症候、診断と治療を説明できる。
10. 腎尿路泌尿器系腫瘍の種類、症候、診断と治療を説明できる。
11. 尿路性器損傷および瘻の原因、病態、症候、診断、治療を説明できる。
12. 腎不全に対する腎代替療法としての腎移植について説明できる。

学習方法：

1. 講義

全員で泌尿器科疾患に重要な解剖生理、泌尿器科疾患の病態生理、泌尿器科疾患の診断と治療に関する講義を聴講する。

2. 質問は、講義中にすること。やむを得ない場合には講義時間外にアポイントを取り質問をすること。

3. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

4. 標準テキスト「シンプル腎・泌尿器科学」編集 富田善彦・今田恒夫 南江堂

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

大澤 崇宏（泌尿器科、2284、takahiro.osawa.ajst@niigata-u.ac.jp）

齋藤 和英（泌尿器科、2285、kazsaito@med.niigata-u.ac.jp）

小原 健司（泌尿器科、2289、obarak@med.niigata-u.ac.jp）

星井 達彦（泌尿器科、2289、t-hoshii@med.niigata-u.ac.jp）

田崎 正行（泌尿器科、2289、masa1214@med.niigata-u.ac.jp）

石崎 文雄（泌尿器科、2289、ishizaki@med.niigata-u.ac.jp）

安樂 力（泌尿器科、2289、shin2.jp@yahoo.co.jp）

ユニット⑤「小児科領域の腎疾患」

担当教員：小児科（山田剛史）

到達目標：小児に特徴的な腎疾患について、種類、病態生理、診断と治療の基本的知識を習得する。

アウトカム：小児に特徴的な腎疾患の病態、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小児科からみた糸球体腎炎、尿細管間質疾患」を聴講する。
2. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

山田 剛史（小児科、2221、tyamada@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑥「利尿薬・腎疾患の薬理学」

担当教員：腎・膠原病内科（渡辺博文）、血液浄化療法部（大塚忠司）、保健学科（金子佳賢）、

到達目標：腎・泌尿器系疾患の臨床治療や病態改善に役立つ病態薬理学の基本的知識および薬物治療の問題解決能力を習得する。

アウトカム：以下の項目を説明できる。

1. レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系とそれらの阻害薬を含む降圧薬
2. 利尿薬、グルコース共輸送体2（SGLT2）阻害薬
3. 薬剤性腎障害

学習方法：

1. ⑥-1)講義「RAS阻害薬」を聴講する。
2. ⑥-2)講義「利尿薬・SGLT2阻害薬」を聴講する。
3. ⑥-3)講義「薬剤性腎障害」を聴講する。
4. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

金子 佳賢（保健学科、2200、kanekoy@med.niigata-u.ac.jp）

渡辺 博文（腎・膠原病内科、2200、watanabeh@med.niigata-u.ac.jp）

大塚 忠司（血液浄化療法部、2771、totogoal1230@gmail.com）

コース（11）「生殖・発達系」

担当教室：産婦人科学、小児科学、小児外科学、内科学第二、泌尿器科、外科学第一、麻酔科学

到達目標：臨床医学の学習を円滑に行うために、女性特有の疾患及び胎児を含めた小児の発達に関する医学的知識を深める。主たる疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療についての基本的知識と、初歩的な問題解決能力を修得する。

ユニット：

- ① 「Reproductive 入門、生殖系の基礎」
- ② 「月経」
- ③ 「妊娠」
- ④ 「産科超音波診断」
- ⑤ 「CTG の見方と異常」
- ⑥ 「良性婦人科疾患」
- ⑦ 「婦人科腹腔鏡手術」
- ⑧ 「分娩と産褥」
- ⑨ 「異常妊娠」
- ⑩ 「更年期障害」
- ⑪ 「膣外陰疾患」
- ⑫ 「不妊・内分泌・乳腺疾患」
- ⑬ 「子宮頸癌」
- ⑭ 「子宮体癌」
- ⑮ 「卵巣癌」
- ⑯ 「合併症妊娠」
- ③⑩-Y 「産婦人科の薬理」
 - A 「まとめ1・周産期」
 - B 「まとめ2・婦人科」
 - C 「まとめ3・その他」
 - D 「特別講義」

- ⑰ 「小児の主要な疾患」
- ⑱ 「小児の内分泌、代謝・栄養性疾患」
- ⑲ 「小児の呼吸器疾患・感染症」
- ⑳ 「小児の神経・筋疾患、精神疾患」
- ㉑ 「小児の免疫・アレルギー疾患，膠原病」
- ㉒ 「小児外科総論・新生児外科・新生児の生理」
- ㉓ 「小児の代謝・輸液・栄養，顔面・頸部疾患」
- ㉔ 「小児の外科的呼吸器疾患と腹壁形成異常」
- ㉕ 「小児泌尿生殖器疾患，外傷・異物」
- ㉖ 「小児悪性腫瘍と良性腫瘍」

学習方法(共通) :

1. 講義

関連する内容について全員が第3講義室で講義を聴講もしくはグループ学習を実施する。

2. 試験

コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

担当教員 : コース担当各教室の教員

臓器別統合コース：コース(11)「生殖・発達系」時間割(1)

6月8日 月	6月9日 火	6月10日 水	6月11日 木	6月12日 金
8:30	法医学	8:30ユニット⑦ 講義 「小児科とよは」 齋藤	8:30ユニット⑨ 講義 「異常妊娠」 松下	8:30ユニット⑪ 講義 「膈外陰疾患」 小林
		9:40ユニット⑩ 講義 「新生児の低酸素性虚血性脳症」 小林玲	10:10ユニット⑨ 講義 「異常妊娠；腎と妊娠」 山本	10:10 ユニット 特別講義 磯部
11:50	公衆衛生学	10:50ユニット⑦ 講義 「小児の主な血液疾患」 今井	13:00 ユニット 特別講義 関根	13:00ユニット⑫ 講義 「気道・肺」 小林(隆)
		13:00ユニット⑫ 講義 「小児外科とよは」 木下	14:50ユニット⑩ 講義 「更年期障害」 鈴木	14:50ユニット⑫ 講義 「新生児の生理」 小林(玲)
13:00	腎・泌尿器系	14:50ユニット⑫ 講義 「腹壁・膈・尿管」 小林(隆)	16:20	
		14:50 ユニット① ガイダンス 「Reproductive入門」 森		
	講義 「生殖系基礎」 森			

臓器別統合コース：コース(11)「生殖・発達系」時間割(2)

6月15日 月	6月16日 火	6月17日 水	6月18日 木	6月19日 金
8:30	法医学 病理各論Ⅱ	8:30ユニット⑤ 講義 「CTGの見方と異常」 山口	8:30ユニット⑧「分娩と産褥」 「分娩と産褥」 須田	8:30ユニット⑩-Y 講義 「産婦人科の薬理」 西島・工藤
11:50		10:10ユニット⑭ 講義 「子宮体癌」 吉原	10:10 ユニット⑧「分娩と産褥」 「産科麻酔」 山本	10:10ユニット⑦ 講義 「婦人科腹腔鏡手術」 安達
13:00	公衆衛生学 医学情報学(応用)	13:00ユニット⑳ 講義 「代謝・輸液・栄養」 小幡	13:00ユニット③ 講義 「妊娠の生理と管理」 明石	13:00ユニット㉕ 講義 「泌尿生殖器」 木下
16:20		14:50ユニット㉑ 講義 「顔面・頸部」 小幡	14:50ユニット② 講義 「月経とは」 黒澤	14:50ユニット㉖ 講義 「外傷・異物・熱傷」 菅井

臓器別統合コース：コース(11)「生殖・発達系」時間割(3)

6月22日 月	6月23日 火	6月24日 水	6月25日 木	6月26日 金
8:30	法医学 病理各論Ⅱ	8:30ユニット⑩「不妊・内分泌」 講義「不妊症・内分泌異常」 谷地田	8:30ユニット⑩ ガイダンス 「小児の内分泌、代謝・栄養性疾患」	8:30ユニット⑩ 講義 「卵巣癌」 田村
		10:10ユニット⑩「不妊・内分泌」 「男性不妊」 石崎	8:45ユニット⑩ 講義 「小児内分泌疾患(総論)」 小川	10:10 ユニット 特別講義 近澤
11:50	公衆衛生学 医学情報学(応用)	13:00ユニット⑫ 講義 「悪性腫瘍」 木下	10:00ユニット⑩講義 「小児肥満・糖尿病」 小川	13:00ユニット⑫ ガイダンス 「小児の免疫・アレルギー疾患、膠原病」
13:00			11:00ユニット⑩グループ学習 「小児の内分泌、代謝・栄養性疾患」 (責任者：小川)	
16:20		14:50ユニット⑫ 講義 「良性腫瘍・脈管奇形」 木下	14:10ユニット⑫ 講義 「小児心身症の診療の実際」 牧野	14:20ユニット⑫ グループ学習 「小児の免疫・アレルギー疾患、膠原病」
			15:20ユニット⑫ 講義 「児童虐待」 牧野	責任者：金子(詩)

臓器別統合コース：コース(11)「生殖・発達系」時間割(4)

6月29日 月	6月30日 火	7月1日 水	7月2日 木	7月3日 金
8:30	病理各論Ⅱ	8:30ユニット⑩ 講義 「小児の水・電解質」 山田	8:30ユニット⑩ 講義 「先天性代謝性疾患(総論)」 小川	8:30ユニット⑩ 講義 「小児の主な腎疾患」 山田
		9:50ユニット⑩ 講義 「小児の主な呼吸障害」 松井	9:30ユニット⑩ グループ発表、解説 「内分泌疾患、代謝・栄養性疾患」 責任者：小川	9:50ユニット⑩ 講義 「小児の主なウイルス感染症」 羽深
11:50	公衆衛生学 医学情報学(応用)	13:00ユニット⑪ 講義 「小児の主な神経疾患①」 大野	13:00ユニット⑪ 講義 「小児の主なアレルギー疾患」 金子(詩)	13:00ユニット⑪「乳腺」 講義 「乳腺疾患の診断と治療」 諸
13:00		14:10ユニット⑪ 講義 「小児の主な神経疾患②」 大野	14:50ユニット⑪ グループ発表 「小児の免疫・アレルギー疾患、膠原病」	15:10 グループ学習 責任者：諸
		15:20ユニット⑪ 講義 「小児の主な神経疾患③」 大野	責任者：金子(詩)	
16:20				

臓器別統合コース：コース(11)「生殖・発達系」時間割(5)

	7月6日 月	7月7日 火	7月8日 水	7月9日 木	7月10日 金
8:30	法医学	病理各論Ⅱ	8:30ユニット④ 講義 「産科超音波診断」 西島	視覚器	8:30ユニットA まとめ1・周産期 高橋
			10:10 ユニット⑩ 講義 「合併症妊娠」 高橋		10:10ユニットC まとめ3・その他 明石
11:50	公衆衛生学	13:00ユニット⑥ 講義 「良性婦人科疾患」 南川	13:00ユニットB まとめ2・婦人科 黒澤	視覚器	試験
13:00		14:50ユニット⑬ 講義 「子宮頸癌」 工藤			
16:20					

ユニット①「Reproductive 入門、生殖系の基礎」

担当教員：森 裕太郎（産婦）

到達目標：Reproduction（生殖医学）を中心とした女性特有の生命現象の基本および女性性器の構造に関わる基本的事項を理解する。

アウトカム：

1. 生殖器系の発生・解剖を説明できる。
2. 生殖器系の生理を概説できる。
3. 生殖器系の診察と検査を概説できる。
4. 生殖器系代表的疾患を概説できる。

学習方法：

1. 講義「Reproduction 入門」を聴講する。
2. 講義「生殖系基礎」を聴講する。
3. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

森 裕太郎（産婦人科、2320、yutmori@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「月経」

担当教員：黒澤 めぐみ（産婦）

到達目標：月経についての基本的知識を習得する。

アウトカム：

1. 月経周期の調節機構を説明できる。
2. 月経異常の原因、検査、診断と治療を説明できる。
3. 性分化の過程、異常の発生過程、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「月経」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

黒澤 めぐみ（産婦人科、m-kurosawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット③「妊娠の生理と管理」

担当教員：明石 英彦（産婦）

到達目標：妊娠についての基本を習得する。

アウトカム：

1. 妊娠の成立を概説できる。
2. 正常妊娠の経過を概説できる。
3. 妊婦の管理を説明できる。
4. 妊娠中のマイナートラブルとリスク因子を説明できる。
5. 胎児管理における超音波検査、胎児発育の評価、胎児成熟度の評価と fetal well being の診断について概説できる。

学習方法：

1. 講義「妊娠」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

明石 英彦（産婦人科、2320、hakashi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット④「産科超音波診断」

担当教員：西島 浩二（産婦）

到達目標：産科超音波診断の基本を習得する。

アウトカム：

1. 正常妊娠の超音波所見を理解できる。
2. 代表的な異常妊娠の超音波所見を理解できる。
3. 胎児管理における超音波検査、胎児発育の評価、胎児成熟度の評価と fetal well being の診断について概説できる。
4. 産科超音波診断の意義について理解できる。

学習方法：

1. 講義「産科超音波診断」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

西島 浩二（産婦人科、2320、kojigyne@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑤「CTGの見方と異常」

担当教員：山口 真奈子（産婦）

到達目標：CTG（Cardiotocogram）についての基本を習得する。

アウトカム：

1. CTGの基本事項について概説できる。
2. CTGの正常所見について概説できる。
3. CTGの異常所見について概説できる。
4. CTGの異常所見に基づいた適切な対応方法について概説できる。

学習方法：

1. 講義「CTGの見方と異常」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

山口 真奈子（産婦人科、2320、manako0131@gmail.com）

ユニット⑥「良性婦人科疾患」

担当教員：南川 高廣（産婦）

到達目標：良性婦人科疾患について、病態、診断と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 子宮内膜症の疫学、発生機序、症状、診断と治療を説明できる。
2. 子宮腺筋症の病態、症状、診断と治療を説明できる。
3. 子宮平滑筋腫について、発生機序、分類、症状、診断、鑑別診断、合併症、治療と予後を説明できる。
4. 良性卵巣腫瘍の疫学と頻度を説明できる
5. 良性卵巣腫瘍の発生機序と自然史を説明できる。
6. 良性卵巣腫瘍の症状、検査法、管理法と治療を説明できる。
7. 良性卵巣腫瘍の実際症例の問題点とその解決法を説明できる。

学習方法：

1. 講義「良性婦人科疾患」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

南川 高廣（産婦人科、2320、tminami8@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑦「婦人科腹腔鏡手術」

担当教員：安達 聡介（産婦）

到達目標：良性婦人科疾患に対する腹腔鏡手術について、その適応やメリット・デメリット等の基本を習得する。

アウトカム：

1. 卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術の概要について説明できる。
2. 子宮腫瘍に対する腹腔鏡手術の概要について説明できる。
3. その他の婦人科疾患に対する腹腔鏡手術の概要について説明できる。

学習方法：

1. 講義「婦人科腹腔鏡手術」を聴講し、手術ビデオを供覧する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

安達 聡介（産婦人科、2320、sadaichi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑧「分娩と産褥」

担当教員：須田 一暁（産婦）、山本 知裕（麻酔）

到達目標：正常分娩における分娩機転と分娩管理、分娩における産褥の臨床と管理法、産褥の正常と異常および産科手術、分娩誘発・促進、産科麻酔の基礎を習得する。

アウトカム：

1. 分娩の3要素を説明できる。
2. 分娩機転（胎児の産道通過機転、胎盤の剥離と娩出）を説明できる。
3. 正常分娩の経過を説明できる。
4. 産婦診察と分娩監視を説明できる。
5. 産褥期の異常を説明できる。
6. 代表的産科手術の適応、要約と手術内容を概説できる。
7. 分娩誘発・促進の適応と要約を説明できる。
8. 産科麻酔の方法を概説できる。

学習方法：

1. 講義「分娩と産褥」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

須田 一暁（産婦人科、2320、sudakazuaki@med.niigata-u.ac.jp）

山本 知裕（麻酔科、2328、yamamoto270@hotmail.com）

ユニット⑨「異常妊娠」

担当教員：松下 充（産婦）、山本 卓（腎・膠原病内科）

到達目標：異常妊娠の病態、診断と治療について理解する。

アウトカム：

1. 子宮内胎児発育遅延症の病態と診断を説明できる。
2. 早産と切迫早産について説明できる。
3. 多胎妊娠の問題点を説明できる。
4. 妊娠悪阻、流産と不育症について説明できる。
5. 妊娠高血圧腎症の病態と管理法を説明できる。
6. 常位胎盤早期剥離の病態、治療法と鑑別疾患を説明できる。

学習方法：

1. 講義「異常妊娠」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

松下 充（産婦人科、2320、bachi1970@med.niigata-u.ac.jp）

山本 卓（腎・膠原病内科、2200、yamamots@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑩「更年期障害」

担当教員：鈴木 美保（産婦）

到達目標：更年期障害について、臨床的問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 加齢による性機能の変化を説明できる。
2. 更年期障害の定義、背景、分類、病態生理、診断、鑑別診断と治療を説明できる。
3. 中、高年女性の健康管理を説明できる。
4. 更年期疾患に対するホルモン補充療法のリスクとベネフィットを説明できる。

学習方法：

1. 講義「更年期障害」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

鈴木 美保（産婦人科、2320、miho-suzuki1289@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑪「膣外陰疾患」

担当教員：小林 暁子（産婦）

到達目標：膣外陰疾患の基本を習得する。

アウトカム：

1. 典型的な写真やシェーマを見ることで、膣外陰疾患の種類・病因を説明できる。
2. 膣外陰疾患の診断方法・鑑別疾患・標準的な治療方法を説明できる。
3. 性行為等によって感染・伝播する可能性のある膣外陰疾患について、その予防策を説明できる。

学習方法：

1. 講義「膣外陰疾患」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

小林 暁子（産婦人科、2320、aobgyn-cell@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑫「不妊・内分泌・乳腺疾患」

担当教員：谷地田 希（産婦）、石崎 文雄（泌尿）、諸 和樹（消外）

到達目標：婦人科内分泌の基礎と臨床、婦人科内分泌異常や男性不妊を含めた不妊症の臨床的問題解決法の基本および乳腺疾患の基礎と臨床について習得する。

アウトカム：

1. 婦人科内分泌異常における女性ホルモンの変動と調節機構を説明できる。
2. 婦人科内分泌疾患の原因、検査、診断と治療を説明できる。
3. 不妊症の原因、診断、検査と治療を説明できる。
4. 乳腺疾患の検査、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「不妊・内分泌・乳腺疾患」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

谷地田 希（産婦人科、2320、nyachida@med.niigata-u.ac.jp）

石崎 文雄（泌尿器科、2289、ishizaki@med.niigata-u.ac.jp）

諸 和樹（消化器・一般外科、2228、kmoro@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑬「子宮頸癌」

担当教員：工藤 梨沙（産婦）

到達目標：子宮頸部腫瘍について、病態、診断と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 子宮頸部の構造を説明できる。
2. 子宮頸部腫瘍の疫学と頻度を説明できる
3. 子宮頸部腫瘍の発生機序と自然史を説明できる。
4. とくに HPV と子宮頸部腫瘍の関係について説明できる。
5. 子宮頸部腫瘍の症状、検査法、管理法と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「子宮頸癌」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

工藤 梨沙（産婦人科、2320、pearpear@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑭「子宮体癌」

担当教員：吉原 弘祐（産婦）

到達目標：子宮体癌について、病態、診断と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 子宮体癌の疫学、頻度、進行期分類、病理組織学的分類、診断、検査、治療と予後について説明できる。

学習方法：

1. 講義「子宮体癌」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

吉原 弘祐（産婦人科、2320、yoshikou@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑮「卵巣癌」

担当教員：田村 亮（産婦）

到達目標：悪性卵巣腫瘍について、病態、診断と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 悪性卵巣腫瘍の疫学と頻度を説明できる。
2. 悪性卵巣腫瘍の分類と病理学的診断基準を説明できる。
3. 悪性卵巣腫瘍の進行期分類、症状、検査法、管理法と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「卵巣癌」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

田村 亮（産婦人科、2320、ryo-h19@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑩「合併症妊娠」

担当教員：高橋 宏太朗（産婦）

到達目標：産科合併症・偶発合併症を理解し、各合併症の病態と治療法を修得する。

アウトカム：

1. 妊娠中毒症の病態と管理法を説明できる。
2. 常位胎盤早期剥離の病態、治療法と鑑別疾患を説明できる。
3. 前置胎盤について説明できる。
4. 前期破水の病態、管理法と治療法を説明できる。
5. 合併症妊娠を列挙し、説明できる。

学習方法：

1. 講義「合併症妊娠」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

高橋 宏太朗（産婦人科、2320、sktakahashi2727@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット③⑩-Y「産婦人科の薬理」

担当教員：西島 浩二・工藤 梨沙（産婦）

到達目標：周産期・女性医学分野において頻用する薬剤に関する基本的知識を修得する。

アウトカム：

1. 周産期診療に使用する薬剤について説明できる。
2. 女性医学診療に使用する薬剤について説明できる。

学習方法：

1. 講義「産婦人科の薬理」を聴講する。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

西島 浩二（産婦人科、2320、kojigyne@med.niigata-u.ac.jp）

工藤 梨沙（産婦人科、2320、pearpear@med.niigata-u.ac.jp）

ユニットA「まとめ1・周産期」
ユニットB「まとめ1・婦人科腫瘍」
ユニットC「まとめ1・その他」

担当教員： A 高橋 宏太朗（産婦）

担当教員： B 黒澤 めぐみ（産婦）

担当教員： C 明石 英彦（産婦）

到達目標： 周産期分野、婦人科腫瘍、その他の領域についてのまとめを行う。

アウトカム：

1. 周産期領域についての知識を整理する。
2. 婦人科腫瘍領域についての知識を整理する。
3. その他（生殖・女性ヘルスケア）についての知識を整理する。

学習方法：

1. それぞれの分野についてテストを受け、解説を聴く。
2. コース終了時の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

高橋 宏太朗（産婦人科、2320、sktakahashi2727@med.niigata-u.ac.jp）

黒澤 めぐみ（産婦人科、2320、m-kurosawa@med.niigata-u.ac.jp）

明石 英彦（産婦人科、2320、hakashi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニットD「特別講義」

担当教員： 関根 正幸（産婦・琉球大学教授）、磯部 真倫（産婦・岐阜大学教授）、近澤 研郎（産婦・自治医科大学准教授）

到達目標：産婦人科領域全般について、女性の健康管理の重要性と必要性・医療の中で果たす役割・産婦人科医のキャリア形成等に関する総合的な知識を身につける。

アウトカム：

1. 女性の健康管理の重要性と必要性知識を整理する。
2. 産婦人科診療が、医療の中で果たす役割について整理する。
3. 産婦人科医のキャリア形成を学ぶ。

学習方法：

1. それぞれの分野について講義を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

関根 正幸（産婦人科、2320、obgy@med.niigata-u.ac.jp）

磯部 真倫（産婦人科、2320、obgy@med.niigata-u.ac.jp）

近澤 研郎（産婦人科、2320、obgy@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑰「小児の主要な疾患」

担当教員：齋藤 昭彦、今井 千速、山田 剛史

到達目標：小児に特徴的な疾患の病態生理、症候、診断と治療の基本的知識を修得する。

アウトカム：

1. 小児の特性を説明できる。
2. 小児に特徴的な腎疾患の病態、診断と治療を説明できる。
3. 小児に特徴的な血液疾患の病態、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 3年次前期の「統合臨床医学コース」のユニット③「小児の特性(成長と発達)」で学習した、胎児、新生児、乳幼児、小児期から思春期にかけての成長と発達と病態について復習する。
2. 「臓器別統合コース(11)腎・泌尿器系」の「小児科からみた糸球体腎炎、尿細管間質疾患」について復習する。
3. 代表的な小児科学テキスト（標準小児科学第9版など）で関連部分の復習を行う。
4. 講義「小児科とは」を聴講し、小テストを受ける。
5. 講義「小児の主な血液疾患」を聴講する。
6. 講義「小児の主な腎疾患」、「小児の水・電解質」を聴講する。
7. 質問は、あらかじめ講義を担当した教員にメールなどでアポイントをとり、質問時間に指定場所に出向いて行う。
8. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

齋藤 昭彦(小児科、2222、asaitoh@med.niigata-u.ac.jp)

今井 千速(小児科、2222、chihaya@med.u-toyama.ac.jp)

山田 剛史(小児科、2222、tyamada@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑩「小児の内分泌、代謝・栄養性疾患」

担当教員：小川洋平

到達目標：小児の主な内分泌、代謝・栄養性疾患について、その原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 小児の主な内分泌疾患の原因、症候、診断と治療を説明できる。
2. 小児の主な代謝・栄養性疾患の原因、症候、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小児内分泌疾患（総論）」を聴講する。
2. 講義「小児肥満・糖尿病」を聴講する。
3. 班毎に大きなテーマを振り分け各テーマに関する課題を1人1課題を担当する。
4. グループ学習：班毎に、各々割り当てられた課題についてパワーポイント1枚（ノートに概説を入れる）でまとめ、発表の準備をすすめる。内容に関して、担当教官の指導を受ける。
5. 講義「先天性代謝性疾患（総論）」を聴講する。
6. 発表：グループ毎の課題を一つのパワーポイントにまとめて、それぞれ一つの班に発表してもらおう。発表は持ち時間一人2分とし、発表にあたった班の全員に発表してもらおう。
7. 同じ発表テーマのグループから一つずつ質問をしてもらおう。
8. 最後にテーマ毎に教官が解説する。
9. 代表的な小児科学テキスト（標準小児科学第9版など）を使用すること
10. 質問があるときは、質問担当教員に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて討議を行う。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

小川 洋平（小児科、2222、ogawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑱「小児の呼吸器疾患・感染症」

担当教員：羽深 理恵、松井 亨

到達目標：小児の主な呼吸器疾患と感染症の原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 小児の主な細菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。
2. 小児の主な呼吸器疾患の原因、症候、診断と治療を説明できる。
3. 小児の呼吸不全の定義、原因、症候、診断と治療を説明できる。
4. 小児の主なウイルス感染症の症候、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小児の主な細菌感染症」を聴講する。
2. 講義「小児の主な呼吸障害」を聴講する。
3. 講義「小児の主なウイルス感染症」を聴講する。
4. 「臓器別統合コース(3)呼吸器系」の「小児に特有な呼吸器感染症（クループを含む）」を復習する。
5. 講義を聴講し、疑問点を明らかにする。
6. 代表的な小児科学テキスト（標準小児科学第9版など）で関連部分の復習を行う。
7. 質問があるときは、質問担当教員に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて討議を行う。
8. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

羽深 理恵（小児科、2222、rie.habuka@gmail.com）

松井 亨（小児科、2222、komatsui@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑳「小児の神経・筋疾患、精神疾患」

担当教員：大野 武、小林 玲、牧野 仁

到達目標：小児の主な神経・筋疾患、精神疾患の原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 小児の主な神経疾患の原因、症候、診断と治療を説明できる。
2. 小児心身症の病態、症候、診断と治療を説明できる。
3. 児童虐待の背景、現状、対応（医療的、社会的）を説明できる。
4. 新生児の低酸素性虚血性脳症の原因、症候、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小児の主な神経疾患①～③」を聴講する。
2. 講義「小児心身症の診療の実際」を聴講する。
3. 講義「児童虐待」を聴講する。
4. 講義「新生児の低酸素性虚血性脳症」を聴講し、小テストを受ける。
5. 講義を聴講し、疑問点を明らかにする。
6. 代表的な小児科学テキスト（標準小児科学第9版など）で関連部分の復習を行う。
7. 質問があるときは、質問担当教員に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて討議を行う。
8. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

大野 武（小児科、2222、takeono2299@yahoo.ne.jp）

小林 玲（小児科、2222、akyura@med.niigata-u.ac.jp）

牧野 仁（新潟県立吉田病院、2222、hitoshi.makino@aiko.or.jp）

ユニット⑪「小児の免疫・アレルギー疾患、膠原病」

担当教員：金子 詩子

到達目標：小児の主な免疫・アレルギー疾患、膠原病の原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 小児の主な膠原病の原因、症候、診断と治療を説明できる。
2. 小児の主なアレルギー疾患の原因、症候、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小児の主な膠原病」を聴講し、小テストを受ける。
2. 講義「小児の主なアレルギー性疾患」を聴講し、小テストを受ける。
3. 講義を聴講し、疑問点を明らかにする。
4. グループ学習：提示されたテーマについてグループ毎に調査すべき事項を明らかにし、発表の準備をすすめる。内容に関して、担当教官の指導を受ける。
5. 発表：グループ毎の課題を一つのパワーポイントにまとめて代表者が発表する。
6. 最後にテーマ毎に教官が解説する。
7. パワーポイントの内容をA4でプリントアウトし、各班一部ずつ提出する。
8. 代表的な小児科学テキスト（標準小児科学第9版など）で関連部分の復習を行う。
9. コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

金子 詩子（小児科、2222、shounika@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「小児外科総論・新生児外科・新生児の生理」(RD-1, 2)

担当教員：木下 義晶 (小児外科)、小林 玲 (小児科・NICU)

到達目標：小児外科の歴史を理解し、どのような理由で小児外科が生まれ、医学の新しい分野として独立したかを理解できる。人体の発生を、小児外科疾患の発生機序から理解する。新生児の生理と周術期管理を理解する。

アウトカム：

1. 新生児の生理と周術期管理を理解する。
2. 小児外科の歴史を理解し、小児外科の必要性を説明できる。
3. 人体の発生を復習し、どの時期にどのような異常が発生するかを理解する。
4. 人体の発生から見た小児外科疾患のコンセプトを説明できる。
5. 新生児外科に対する概念を構築し、新生児管理について理解する。
6. 出生前診断と新生児外科疾患について理解する。

学習方法：

1. 講義「小児外科とは」を聴講する。
2. 講義「新生児の生理」を聴講する。
3. 小児外科学テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

木下 義晶 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑳「小児の代謝・輸液・栄養，顔面・頸部疾患」(RD-3, 4)

担当教員：小幡 聡 (小児外科)

到達目標：小児・新生児の生理的な特徴を理解し、代謝・輸液・栄養の基本を習得する。
顔面・頸部疾患（正中頸嚢腫、側頸嚢胞、梨状窩瘻、耳前瘻）の発生学的特徴、診断、治療と鑑別診断を理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 小児における代謝・輸液・栄養の基本原則を理解する。
2. 小児における代謝・輸液・栄養の実際を説明できる。
3. 顔面・頸部疾患（正中頸嚢腫、側頸嚢胞、梨状窩瘻、耳前瘻）の疫学、診断、治療が理解できる。

学習方法：

1. 講義「代謝・輸液・栄養」を聴講する。
2. 講義「顔面・頸部」を聴講する。
3. 小児外科テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

小幡 聡 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット④「小児の外科的呼吸器疾患と腹壁形成異常」(RD-5, 6)

担当教員：小林 隆 (小児外科)

到達目標：呼吸障害を呈する代表的な小児外科呼吸器疾患の発生、病態生理、診断、治療と鑑別診断を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を習得する。腹壁異常についてその発生、分類、治療を理解し、治療方針を述べることができる。

アウトカム：

1. 呼吸障害を呈する代表的な小児外科的疾患（先天性横隔膜ヘルニア、先天性肺気道奇形、肺分画症、漏斗胸）を列挙できる。
2. 呼吸障害を呈する代表的な小児外科疾患（先天性横隔膜ヘルニア、先天性肺気道奇形、肺分画症、漏斗胸）の病態、治療法を説明できる。
3. 腹壁・臍・単径部疾患（腹壁破裂、臍帯ヘルニア、臍ヘルニア、単径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣）の分類を説明できる。
4. 腹壁・臍・単径部疾患（腹壁破裂、臍帯ヘルニア、臍ヘルニア、単径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣）の治療を病態から説明できる。

学習方法：

1. 講義「気道・肺」を聴講する。
2. 講義「腹壁・臍・単径」を聴講する。
3. 小児外科テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

小林 隆 (小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット②⑤「小児泌尿生殖器疾患，外傷・異物」(RD-7, 8)

担当教員：木下義晶、菅井 佑（小児外科）

到達目標：代表的な小児泌尿器疾患の発生、病態生理、診断、治療と鑑別診断を理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。小児でみられる外傷・異物についての診断、治療方法を理解する

アウトカム：

1. 小児泌尿器疾患の多様性と疾患の特徴を理解する。
2. 水腎症、重複尿管・尿管瘤、膀胱尿管逆流、尿膜管遺残についての概念、診断、治療を説明できる。
3. 小児でみられる外傷、消化管異物・気道異物、熱傷の診断・治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「泌尿生殖器」を聴講する。
2. 講義「外傷・異物・熱傷」を聴講する。
3. 小児外科テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

木下義晶（小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp）

菅井 佑（小児外科、2258、pedsurg@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②⑥「小児悪性腫瘍と良性腫瘍」(RD-9, 10)

担当教員：木下 義晶 (小児外科)

到達目標：小児悪性腫瘍の発生、病態生理、診断、治療と鑑別診断を理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。小児良性腫瘍・脈管奇形概念、診断、治療方法を理解する。

アウトカム：

1. 代表的な小児悪性固形性腫瘍を列挙できる。
2. 神経芽腫・ウィルムス腫瘍・肝腫瘍・横紋筋肉腫・胚細胞腫瘍の発生、遺伝子学的背景と生物学的予後因子などを説明できる。
3. 神経芽腫・ウィルムス腫瘍・肝腫瘍・横紋筋肉腫・胚細胞腫瘍の症候と診断を説明できる。
4. 神経芽腫・ウィルムス腫瘍・肝腫瘍・横紋筋肉腫・胚細胞腫瘍の集学的治療を説明できる。
5. 小児悪性固形性腫瘍の化学療法の概要を説明できる。
6. 小児良性腫瘍（血管腫・血管奇形・リンパ管奇形）の概念、診断、治療について説明できる。

学習方法：

1. 講義「悪性腫瘍」を聴講する。
2. 講義「良性腫瘍・脈管奇形」を聴講する。
3. 小児外科テキストに沿って講義を行うので、適宜テキストを参照する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

木下 義晶 (小児外科、2258、 pedsurg@med.niigata-u.ac.jp)

コース(12) 「視覚器」

担当教室：眼科学

到達目標：臨床実習に必要な視覚器に関する基本的知識、視覚系疾患の診断と治療の方法に関して初歩的問題解決能力を習得する。

ユニット：

- ① 「眼科学総論」
- ② 「網膜硝子体疾患」（加齢黄斑変性・中心性漿液性脈絡網膜症/糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患/網膜剥離・黄斑円孔・網膜前膜）
- ③ 「緑内障」（総論・原発開放隅角/閉塞隅角・続発・小児・治療）
- ④ 「神経眼科/斜視弱視」
- ⑤ 「角結膜疾患/白内障・水晶体疾患/ぶどう膜炎」
- ⑥ 「屈折異常・屈折矯正」
- ⑦ 「眼腫瘍、眼外傷、眼形成」
- ⑧ 「視覚障害リハビリテーション（ロービジョンケア）」
- ⑨ 「遺伝性疾患・網膜変性」
- ⑩ 「眼科領域の AI/VR」

学習方法（共通）：

1. 講義：関連する内容についての講義を聴講する。
2. 試験：コース最終日に試験で評価を受ける。

担当教員：各コースの担当教室の教員

臓器別統合コース:コース(13)「視覚器」時間割

7月8日		7月9日		7月15日		7月16日		7月17日	
水		木		水		木		金	
	8:30-10:00 加齢黄斑変性・ 中心性漿液性脈絡網膜症 長谷部 日	8:30-10:00 網膜剥離・ 黄斑円孔・網膜前膜 吉田 博光	8:30-10:00 屈折異常・屈折矯正 飯川 龍	8:30-10:00 遺伝疾患・網膜変性 大石 明生					
	10:20-11:50 緑内障1 (総論・原発開放隅角) 赤木 忠道	10:20-11:50 糖尿病網膜症・ 網膜血管閉塞性疾患 寺島 浩子	10:20-11:50 視覚障害リハビリテーション 張替 涼子	10:20-11:50 眼腫瘍・眼外傷・眼形成 塩崎 直哉					
	13:00-14:30 緑内障2 (閉塞隅角・続発・小児・治療) 赤木 忠道	13:00-14:30 白内障・水晶体疾患 寺島 浩子	13:00-14:30 ぶどう膜炎 小林 大悟	13:00-14:30 角結膜疾患 松田 英伸					
14:50-15:00 コースガイダンス		14:50-16:20 斜視弱視 植木 智志	14:50-16:20 神経眼科 植木 智志	14:50-16:20 眼科領域のAI/VR 三宅 正裕					
15:00-16:20 眼科学総論 赤木 忠道								14:50-15:10 最終試験	

ユニット①「眼科学総論」

担当教員：赤木 忠道（眼科学 教授）

到達目標：視覚器および視覚情報の重要性を理解する。眼の解剖と生理、眼疾患の検査、症候、治療、薬理について理解する。

アウトカム：

1. 眼球の解剖について説明できる。
2. 眼球の発生について説明できる。
3. 眼・視覚系疾患の症候と関連する疾患について説明できる。
4. 眼科における診察の手順について説明できる。
5. 前眼部の診察方法と所見について理解する。
6. 眼底観察の方法について理解する。

学習方法：

講義：「眼科学総論」を聴講する。

最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

赤木 忠道（眼科・2296：akagi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「網膜・硝子体疾患」

担当教員：寺島 浩子（眼科学 講師）
吉田 博光（眼科学 非常勤講師）
長谷部 日（眼科学 臨床准教授、済生会新潟病院）

到達目標：網膜・硝子体の解剖と生理、ならびに主な網膜硝子体疾患の概念、病態、診断と治療について習得する。

アウトカム：

1. 網膜・硝子体の解剖を説明できる。
2. 網膜・硝子体の生理を説明できる。
3. 頻度の高い網膜・硝子体疾患について概念、病態、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義：「網膜硝子体疾患（加齢黄斑変性・中心性漿液性脈絡網膜症/糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患/網膜剥離・黄斑円孔・網膜前膜）」を聴講する。
最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

寺島 浩子（眼科・2296：aochan@med.niigata-u.ac.jp）
長谷部 日（済生会新潟病院眼科：hasebe.h@ngt.saiseikai.or.jp）

ユニット③「緑内障」

担当教室：赤木 忠道（眼科学 教授）

到達目標：緑内障の病型、病態、診断、治療について理解する。

アウトカム：

1. 緑内障の病型および各病型の病態について説明できる。
2. 隅角の解剖と房水流出経路について説明できる。
3. 緑内障に特徴的な視神経・網膜所見、視野所見について説明できる。
4. 光干渉断層計（OCT）による緑内障診断の原理と方法について説明できる。
5. 視野検査（動的・静的）方法、それぞれの利点・欠点について説明できる。
6. 原発閉塞隅角症・緑内障、特に急性原発閉塞症の発症機序、治療について説明できる。
7. 続発緑内障（落屑緑内障、血管新生緑内障、ぶどう膜炎に伴う緑内障、ステロイド緑内障）の診断と治療について説明できる。
8. 小児緑内障の病型と症候、治療について説明できる。
9. 緑内障の薬物治療について、薬剤の種類、眼圧下降機、副作用について説明できる。
10. 緑内障のレーザー治療、手術治療について、術式と適応を説明できる。

学習方法：

講義：「緑内障（総論・原発開放隅角/閉塞隅角・続発・小児・治療）」を聴講する。

最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

赤木 忠道（眼科・2296：akagi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット④「神経眼科、斜視弱視」

担当教員：植木 智志（眼科学 講師）

到達目標：視神経から視中枢に至る疾患ならびに眼球運動障害、斜視および弱視の診断と治療の基本的知識を習得する。

アウトカム：

1. 原因不明の視力低下の鑑別診断を踏まえて、視神経疾患について原因、症候、検査、治療について説明することができる。
2. 複視の鑑別診断を踏まえて、動眼神経麻痺など眼科に関連した脳神経麻痺について説明することができる。瞳孔不同の鑑別診断を踏まえて眼科に関連した自律神経障害について説明することができる。
3. 斜視・弱視の疾患概念、検査、治療について説明することができる。

学習方法：

講義：「神経眼科/斜視弱視」を聴講する。
最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

植木 智志（眼科・2296：sueki@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑤「角結膜疾患/白内障・水晶体疾患/ぶどう膜炎」

担当教員 寺島 浩子（眼科学 講師）
松田 英伸（眼科学 非常勤講師、松田眼科医院）
小林 大悟（眼科学 助教）

到達目標：角膜・ブドウ膜・水晶体の解剖・生理の正確な理解に基づき、角膜疾患・白内障・ぶどう膜炎の症候、病態、診断と治療法の知識を修得する。

アウトカム：

1. 角膜・ブドウ膜の解剖・生理を説明できる。
2. ドライアイや感染性疾患を含めた角膜疾患の症状、病因、治療について説明できる。
3. 角膜移植の手技、合併症、問題点について説明できる。
4. 水晶体の解剖・生理を理解し、説明することができる。
5. 白内障の病態、白内障の症候、白内障の診断に必要な検査とその検査の意義を説明できる。
6. 白内障の治療法、眼内レンズの種類や特徴について説明することができる。
7. 頻度の高いぶどう膜炎の症状、病因、治療について説明できる。
8. ぶどう膜炎の眼外症状を説明し、診断に必要な全身検査を挙げられる。

学習方法：

1. 講義：「角結膜疾患/白内障・水晶体疾患/ぶどう膜炎」を聴講する
最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

寺島 浩子（眼科・2296：aochan@med.niigata-u.ac.jp）
小林 大悟（眼科・2296：m08a034b@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑥「屈折異常・屈折矯正」

担当教員：飯川 龍（眼科学 助教）

到達目標：眼における屈折と調節の生理、屈折異常の病態、屈折矯正の方法について理解する。

アウトカム：

1. 視覚器の光学的解剖・生理を理解し、説明できる。
2. 屈折(近視、遠視、乱視)について眼光学的に説明できる。
3. 調節のメカニズム、および調節障害・老視の病態を説明できる。
4. 屈折矯正治療である、眼鏡、コンタクトレンズ、手術の、方法とそれぞれの利点と欠点について説明することができる。
5. コンタクトレンズによる眼障害について説明することができる。
6. LASIK (laser-assisted in situ keratomileusis) 、オルソケラトロジー (Orthokeratology : OK) について理解し、説明することができる。

学習方法：

講義：「屈折異常・屈折矯正」を聴講する。

最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

飯川 龍 (眼科・2296 : ryu-iikawa@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑦「眼腫瘍、眼外傷、眼形成」

担当教官：塩崎 直哉（眼科学 助教）

到達目標：眼球および眼付属器に発生する疾患について理解する。退行性および先天性の眼瞼疾患の診断と治療の基本的知識を習得する。眼球および眼付属器に生じる腫瘍性疾患の診断と治療の基本的知識を習得する。眼外傷の診断、初期対応と治療の基本的知識を習得する。

アウトカム：

1. 眼付属器（眼瞼や涙道、眼球周囲の組織）に生じる疾患を挙げられる。
2. 眼瞼下垂、眼瞼内反症の病態と治療を説明できる。
3. 眼窩底骨折の臨床所見、画像所見、治療を説明できる。
4. 頻度の高い眼内および眼瞼、結膜腫瘍について説明できる。
5. 網膜芽細胞腫の疫学、遺伝子異常、診断と治療を説明できる。

学習方法：

講義：「眼腫瘍、眼外傷、眼形成」を聴講する。

最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

塩崎 直哉（眼科・2296：shio@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑧「視覚障害リハビリテーション（ロービジョンケア）」

担当教員：張替 涼子（眼科学 非常勤講師）

到達目標：視覚障害におけるリハビリテーションの概要と必要性を理解する。

アウトカム：

1. 視覚障害リハビリテーションの適応と効果について説明できる。
2. 眼科医療における視覚障害リハビリテーションの位置づけを理解する。
3. 視覚障害パターンと日常生活の困難の特徴を説明できる。
4. 視覚補助具・日常生活用具の種類と特徴を理解する。
5. 身体障害者手帳・障害年金制度について理解する。
6. 福祉サービス活用における医師の責務を理解し説明できる。

学習方法：

講義：「視覚障害リハビリテーション（ロービジョンケア）」を聴講する。
最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

張替 涼子（眼科・2296：oryou3-0@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑨「遺伝性疾患・網膜変性」

担当教官：大石 明生（長崎大学眼科 教授）

到達目標：眼科領域の遺伝性疾患、特に遺伝性網膜ジストロフィの概要と網膜電図検査のしくみ、所見を理解する。

アウトカム：

1. 家系図から遺伝形式を判断出来る。
2. 眼科領域において多因子遺伝性疾患を挙げられる。
3. 眼科領域での単一遺伝子疾患を挙げられる。
4. 網膜電図検査の原理と所見の読み方を理解する。
5. 網膜ジストロフィの所見、診断、遺伝学的検査を理解する。

学習方法：

講義：「遺伝性疾患・網膜変性」を聴講する。
最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

赤木 忠道（眼科・2296：akagi@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑩「眼科領域の AI/VR」

担当教官：三宅 正裕（京都大学眼科 特定講師）

到達目標：現在の artificial intelligence (AI) と virtual reality (VR) の技術を理解し、眼科領域における AI/VR の活用例および今後期待される活用法について理解する。

アウトカム：

1. AI/VR 発展の歴史について概説できる
2. ディープラーニングと生成 AI について仕組みを概説できる
3. ディープラーニングと生成 AI について応用方法を考える事ができる
4. 日本眼科学会における AI への取り組みを理解する
5. AI/VR 時代に知っておくべき事を理解する。

学習方法：

講義：「眼科領域の AI/VR」を聴講する。
最終テストで講義内容の理解到達度を確認する。

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

赤木 忠道（眼科・2296：akagi@med.niigata-u.ac.jp）

コース（13）「麻酔・救急蘇生系」

担当教室：麻酔科、救急医学、集中治療部

到達目標：臨床医学の学習を円滑に行うために、麻酔・救急蘇生に関する臨床上の基本的知識と初歩的な問題解決能力を修得する。

ユニット：

- ① 「麻酔法・麻酔薬・気道確保法」
- ② 「神経解剖学と局所麻酔」
- ③ 「周術期呼吸・循環・体液管理」
- ④ 「ペインクリニック・緩和ケア」
- ⑤ 「救急集中治療概論」
- ⑥ 「初期診療」
- ⑦ 「熱傷・電撃傷・環境異常・中毒」
- ⑧ 「外傷」
- ⑨ 「集中治療」
- ⑩ 「救急集中治療特論」

学習方法：

各ユニット参照

臓器別統合コース：コース(13)「麻酔・救急蘇生系」時間割(2)

7月20日 月	7月21日 火	7月22日 水	7月23日 木	7月24日 金
8:30	祝日	病理各論Ⅱ	ユニット③ 講義：「吸入麻酔薬」 8:30～10:00 (担当：清野)	ユニット③ 講義：「麻酔に必要な循環生理の基礎」 8:30～10:00 (担当：倉部)
11:50			ユニット④ 講義：「急性痛・慢性痛」 10:20～11:50 (担当：馬場)	ユニット③ 講義：「循環器系モニタリング」 10:20～11:50 (担当：松田)
13:00	祝日	ユニット① 講義：「気道確保・挿管困難」 13:00～14:30 (担当：古谷)	ユニット④ 講義：「ベインクリニックと鎮痛薬の使い方」 13:00～14:30 (担当：馬場)	ユニット③ 講義：「周術期体液管理・ 心血管作動薬」 (担当：山本) 13:00～14:30
16:20		ユニット① 講義：「医療ガス・麻酔器と麻酔回路」 14:50～16:20 (担当：馬場)	ユニット③ 講義：「麻酔に必要な呼吸生理・ 呼吸器系モニタリング」 14:50～16:20 (担当：大西)	ユニット④ 講義：「患者評価法」 (担当：西山) 14:50～16:20
	質問時間	質問時間	質問時間	質問時間

臓器別統合コース：コース(13)「麻酔・救急蘇生系」時間割(3)

	7月27日 月	7月28日 火	7月29日 水	7月30日 木	7月31日 金
8:30		ユニット⑦ 講義：「熱傷・電撃傷」 (担当：山口) 8:30～10:00	ユニット⑥ 講義：「救急医療体制・病院前 救護・ドクターヘリ」 (担当：上村) 8:30～10:00	ユニット⑨ 講義：「敗血症」 (担当：八幡) 8:30～10:00	麻酔科学分野筆記試験 9:00 - 10:30 大講義室
11:50	法医学	ユニット⑦ 講義：「環境障害・中毒」 (担当：西山) 10:20～11:50	ユニット⑤ 講義：「患者さん中心の医療のために」 (担当：伊藤 香) 10:20～11:50 対面講義	ユニット⑨ 講義：「急性腎障害」 (担当：土田) 10:20～11:50	
13:00	ユニット⑨ 講義：「小児救急集中治療」 (担当：松井) 13:00～14:30	ユニット⑨ 講義：「呼吸不全」 (担当：本田) 13:00～14:30	ユニット⑩ 講義：「外傷特論」 (担当：横堀 将司) 13:00～14:30 オンライン・対面未定	ユニット⑩ 講義：「救急・集中治療特論」 (担当：瀬尾 龍太郎) 13:00～14:30 対面講義	救急医学分野 筆記試験 (予定) 13:00～14:00
16:20	ユニット⑧ 講義：「多発外傷の病態と初期治療」 (担当：大橋) 14:50～16:20	ユニット⑨ 講義：「人工呼吸」 (担当：本田) 14:50～16:20	ユニット⑥ 講義：「救急外来初期診療」 (担当：大橋) 14:50～16:20	ユニット⑤ 講義：「救急集中治療概論」 (担当：西山) 14:50～16:20	
	質問時間	質問時間	質問時間		

ユニット①「麻醉法・麻醉薬・気道確保法」

担当教室： 麻醉科学

到達目標： 全身麻酔を理解するために必要な麻酔薬および気道確保法の基本的知識を得る。

アウトカム：

1. 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、鎮痛薬の種類、作用、副作用、代謝・排泄を説明できる。
2. 吸入麻酔法、静脈麻酔法の特徴、適応と禁忌、利点と欠点を説明できる。
3. 筋弛緩薬の分類、種類、作用、副作用、代謝・排泄、作用に影響する要因を説明できる。
4. 麻酔器の構造と機能を説明できる。
5. 気道確保法の種類、特徴を説明できる。
6. 喉頭鏡、その他の挿管器具を用いた気管挿管の手順を説明できる。
7. 挿管困難時の対処方法を説明できる。
8. 全身麻酔の導入、維持、覚醒の方法を説明できる。
9. 術後鎮痛法の種類、方法、特徴を説明できる。

学習方法：

1. 講義「麻酔科学序論・麻酔法総論」を聴講する。
2. 講義「麻酔回路・麻酔器の構造と吸入麻酔薬」、「静脈麻酔薬・鎮痛薬」、「気道確保法・挿管困難」、「筋弛緩薬・筋弛緩モニター」を聴講し、小テストを受ける。

質問担当教員： (所属、内線、メールアドレス)

馬場 洋 (麻酔科、2328、baba@med.niigata-u.ac.jp)

古谷 健太 (麻酔科、2328、kenta-f@med.niigata-u.ac.jp)

清野 豊 (麻酔科、2328、m02a038f@yahoo.co.jp)

出口 浩之 (麻酔科、2328、deguchi@med.niigata-u.ac.jp)

大橋 宣子 (麻酔科、2328、ww81854@sa2.so-net.ne.jp)

ユニット②「神経解剖学と局所麻酔」

担当教室：麻酔科学

到達目標：局所麻酔・区域麻酔法を理解するために必要な神経系の解剖と局所麻酔の基本的知識を修得する。

アウトカム：

1. 脊柱管の構造、主要な末梢神経の走行を説明できる。
2. 硬膜外麻酔法、脊髄くも膜下麻酔法、伝達麻酔法の特徴、作用機序、適応と禁忌、利点と欠点、起こりうる合併症と対処法について説明できる。
3. 局所麻酔薬の分類、種類、作用、副作用、代謝・排泄を説明できる。
4. 神経ブロック針の刺入法、カテーテルの挿入法について説明できる。
5. 神経ブロックにおけるエックス線透視法、超音波ガイド法、CTガイド法の利点・欠点について説明できる。

学習方法：講義

1. 講義「局所麻酔法と神経解剖学」、「局所麻酔薬と局所麻酔の実際」を聴講し、小テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

馬場 洋 (麻酔科、2328、baba@med.niigata-u.ac.jp)

渡部 達範 (麻酔科、2328、deepimpact034@yahoo.co.jp)

ユニット③「周術期呼吸・循環・体液管理」

担当教室：麻酔科学

到達目標：麻酔中の呼吸循環器系の生理学的変化・体液変化を理解し、全身管理に必要なモニターの意義、方法、特徴、使用適応判断の基本及び周術期輸液の基本を修得する。

アウトカム：

1. 術前診察、術前評価、術前管理の意義を説明できる。
2. 周術期の体液変動と輸液法について説明できる。
3. 麻酔による呼吸器系・循環器系の生理学的変化について説明できる
4. 手術術式、術前合併症を考慮して適切な麻酔法、モニター、輸液・輸血計画を選択できる。
5. パルスオキシメータとカプノグラムの原理、特徴、意義を説明できる。
6. 血液ガス分析の意義と方法を説明し、データを解釈できる。
7. 動脈ライン、中心静脈ラインの確保方法、手順を説明できる。
8. スワングアンツカテーテルから得られる指標を説明できる。
9. 経食道心エコーの特徴と得られる指標を説明できる。
10. 周術期合併症の診断と対処方法を説明できる。
11. 術後診察での評価項目を説明できる。

学習方法：講義

1. 「麻酔に必要な呼吸生理の基礎」、「呼吸器系合併症とモニタリング」、「麻酔に必要な循環生理の基礎」、「循環器系モニタリング」、「周術期体液管理・心血管系作動薬」を聴講し、小テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

山本 知裕 (麻酔科、2328、yamamoto270@hotmail.com)

倉部 美起 (麻酔科、2328、miyuki915@med.niigata-u.ac.jp)

大西 毅 (麻酔科、2328、tohnishi@med.niigata-u.ac.jp)

松田敬一郎 (麻酔科、2328、matsuk19@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット④「ペインクリニック」

担当教室：麻酔科学

到達目標：主要な急性・慢性疼痛疾患の病態を理解し、診断・治療法を修得する。

アウトカム：

1. 生体内の痛みの神経機構と鎮痛機構を説明できる。
2. 急性痛と慢性痛の違いを説明できる。
3. 痛みの治療の意義・必要性を説明できる。
4. 代表的な難治性疼痛疾患群の症候、診断、治療法を説明できる。

学習方法：講義

1. 講義「急性痛・慢性痛・ペインクリニック」を聴講し、小テストを受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

馬場 洋 (麻酔科、2328、baba@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑤「救急集中治療概論」

担当教室：救急医学、高次救命災害治療センター、集中治療部

到達目標：救急医療および集中治療の概要を学ぶ。

アウトカム：

1. 救急医療について概説できる。
2. 集中治療について概説できる。
3. 救急医療と集中治療の連携について概説できる。
4. 救急集中治療における患者中心の医療について説明できる。

学習方法：

1. 講義「救急集中治療概論」を聴講する。
2. 講義「患者さん中心の医療のために」を聴講する。
3. コース末に筆記試験を受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

西山 慶 (救急医学・高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
keinishi@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑥「初期診療」

担当教室：救急医学、高次救命災害治療センター、集中治療部

到達目標：

- ・救急医療における医療体制、病院前医療、外来初期診療、院内救急について理解する。。

アウトカム：

1. ER でのトリアージについて説明できる。
2. 一次救急、二次救急、三次救急、医療圏について説明できる。
3. 病院前医療について説明できる。
4. ドクターヘリについて説明できる。

学習方法：

1. 講義「ER 初期診療」を聴講する。
2. 講義「救急医療体制・病院前医療・ドクターヘリ」を聴講する。
3. コース末に筆記試験を受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

西山 慶 (救急医学・高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
keinishi@med.niigata-u.ac.jp)

大橋さとみ (高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
emccm@med.niigata-u.ac.jp)

上村 夏生 (高次救命災害治療センター、2338、8788kanatsu@gmail.com)

ユニット⑦「熱傷・電撃傷・環境障害・中毒」

担当教室：救急医学、高次救命災害治療センター、集中治療部

到達目標：

- ・熱傷・電撃傷・環境障害・中毒について、各種疾患の病態生理を理解し、診断と治療法を修得する。

アウトカム：

1. 熱傷の受傷面積、受傷深度および重症度評価について説明できる。
2. 広範囲熱傷の病態と診断、治療法について説明できる。
3. 気道熱傷・電撃傷の病態と診断、治療法について説明できる。
4. 偶発性体温症および凍傷の病態と診断、治療法について説明できる。
5. 熱中症の病態と診断、治療法について説明できる。
6. 溺水の病態と診断、治療法について説明できる。
7. 減圧症の病態と診断、治療法について説明できる。
8. 急性高山病の病態と診断、治療法について説明できる。
9. 急性中毒疾患の診断と治療について概説できる。

学習方法：

1. 講義「熱傷・電撃傷」を聴講する。
2. 講義「環境障害・中毒」を聴講する。
3. コース末に筆記試験を受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

西山 慶 (救急医学・高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
keinishi@med.niigata-u.ac.jp)

山口 勝一郎 (高次救命災害治療センター、2338、emccm@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑧「外傷」

担当教室：救急医学、高次救命災害治療センター、集中治療部

到達目標：外傷における病態生理を理解し、かつ外傷初期治療の基本的知識を修得し、外傷に対する診断と治療法を修得する。

アウトカム：

1. 外傷の病態について概説できる。
2. 外傷における重症度評価について概説できる。
3. 外傷患者に対する初期対応について概説できる。

学習方法：

1. 講義「多発外傷の病態と初期治療」を聴講する。
2. コース末に筆記試験を受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

西山 慶 (救急医学・高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
keinishi@med.niigata-u.ac.jp)

大橋さとみ (高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
emccm@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット⑨「集中治療」

担当教室：救急医学、高次救命災害治療センター、集中治療部

到達目標：重症患者の病態を理解する。

アウトカム：

1. 重症患者における患者評価法、特に by system による評価について説明できる。
2. 重症患者における循環管理について概説できる。
3. 救急・集中治療における急性呼吸不全の病態と治療について説明できる。
4. 敗血症の定義、病態、治療について概説できる。
5. 救急・集中治療における急性腎障害の評価と治療について説明できる。
6. 小児に対する救急集中治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「重症患者評価法」を聴講する。
2. 講義「呼吸不全」を聴講する。
3. 講義「人工呼吸」を聴講する。
4. 講義「敗血症」を聴講する。
5. 講義「急性腎障害」を聴講する。
6. 講義「小児救急集中治療」を聴講する。
7. コース末に筆記試験を受ける。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

西山 慶 (救急医学・高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
keinishi@med.niigata-u.ac.jp)

本田 博之 (集中治療部、2338、h.honda0914@nifty.com)

八幡えり佳 (高次救命災害治療センター、2338、pocochan.eric@gmail.com)

土田 雅史 (高次救命災害治療センター、2338、msfmtsuchida01@gmail.com)

松井 亨 (集中治療部、2338、komatsui@hotmail.com)

ユニット⑩「救急集中治療特論」

担当教室：救急医学、高次救命災害治療センター、集中治療

到達目標：最新の救急集中治療領域におけるトピックを理解する。

アウトカム：

1. 最新の救急集中治療領域におけるトピックについて概説できる。

学習方法：

1. 講義「救急集中治療特論」を聴講する。
2. 講義「外傷特論」を聴講する。

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

西山 慶 (救急医学・高次救命災害治療センター・集中治療部、2338、
keinishi@med.niigata-u.ac.jp)

横堀 将司 (日本医科大学 救命救急科教授、2338、emccm@med.niigata-u.ac.jp)

瀬尾龍太郎 (神戸市立医療センター中央市民病院 emergency ICU 部長、2338、
emccm@med.niigata-u.ac.jp)

コース (14) 「耳鼻頭頸」

担当教室：耳鼻咽喉科学

到達目標：臨床医学の学習を円滑に行うために、耳・鼻・咽頭・喉頭・頭頸部の構造と機能を理解し、主な耳鼻咽喉・頭頸部疾患の原因、病態生理、症候、診断と治療について、基礎知識と初歩的な問題解決能力を習得する。

ユニット：

- (1) -1 「聴覚ならびに体平衡の仕組み」
- (1) -2 「外耳・中耳」
- (2) -1 「内耳・聴神経・聴覚中枢」
- (2) -2 「めまい・顔面神経」
- (3) -1 「鼻・副鼻腔」
- (3) -2 「口腔咽喉頭・良性疾患」
- (3) -3 「口腔咽喉頭・機能性疾患」
- (4) -1 「頭頸部腫瘍・咽喉頭」
- (4) -2 「頭頸部腫瘍・顔面頸部」
- (5) 「耳鼻咽喉科の救急疾患と境界領域疾患」
- (6) 「耳鼻咽喉科領域の最新研究と未来」

学習方法（共通）：

1. コースならびにユニットガイダンス
 - 1) コースの最初に日程、学習方法について説明する。
 - 2) 各ユニットの最初は講義となっている。オンラインで該当ユニットの講義を2～3回分続けて聴講し、続いて個別に症例資料を用いたレポート作成を行う。その後、教員が各症例について解説する。
2. レポート①作成
全員に「資料1」を4症例分配布する。各自2症例を選択し、資料1から考えられる鑑別疾患と、それを診断するために必要な問診、診察、検査についてレポート①を作成する。
3. レポート②作成
全員に「資料2」を4症例分配布する。レポート①で選択した症例について、資料2の問診内容、診察所見、検査結果の意義と、それから導かれる疾患の治療方

針について、レポート②を作成する。

4. 症例発表会

配布した4症例について、1グループ1症例ずつプレゼンテーションする。教員が解説を加える。

5. 教員への質問

担当教員への質問は遠慮なく行ってかまわないが、予めメール等でアポイントを取り、指定時間・指定場所へ出向いて行う。

6. 筆記試験

コースの最後に筆記試験を受け、評価（総括的評価）を受ける。出席が3分の2に満たない者は、筆記試験の受験資格を失う場合がある。

担当教員：

(1) -1 「聴覚ならびに体平衡の仕組み」

(1) -2 「外耳・中耳」

(2) -1 「内耳・聴神経・聴覚中枢」

(2) -2 「めまい・顔面神経」

堀井・泉・大島(伸)・山岸・八木・甲斐

(3) -1 「鼻・副鼻腔」

(3) -2 「口腔咽喉頭・良性疾患」

(3) -3 「口腔咽喉頭・機能性疾患」

岩井・若杉

(4) -1 「頭頸部腫瘍・咽喉頭」

(4) -2 「頭頸部腫瘍・顔面頸部」

植木・正道・尾股・横山

(5) 「耳鼻咽喉科の救急疾患と境界領域疾患」

植木・正道・山岸・若井

(6) 「耳鼻咽喉科領域の最新と未来」

堀井・泉・大島(伸)・甲斐

臓器別統合コース：コース(14)「耳鼻頭頸」時間割

	9月3日 木	9月4日 金	9月7日 月	9月8日 火	9月9日 水
8:30	8:40 ガイダンス (1)-1 講義 「聴覚ならびに体平衡の仕組み」	(2)-1 講義 「内耳・聴神経・聴覚中枢」 9:30	(3)-1 講義 「鼻・副鼻腔」 9:10 (3)-2 講義 「口腔咽喉頭・良性疾患」 9:50 (3)-3 講義 「口腔咽喉頭・機能性疾患」	(4)-1 講義 「頭頸部腫瘍・咽喉頭」 9:30 (4)-2 講義 「頭頸部腫瘍・顔面 頸部」	(6) 講義 「耳鼻咽喉科領域の 最新研究と未来」 10:00 筆記試験 ※試験時間40分 ※開始20分までは退席不可
10:30	(1) レポート① 資料1 (4症例) を配布 各自2症例を選択し レポートを作成 ※時間内に提出	(2) レポート① 資料1 (4症例) を呈示 各自2症例を選択し レポートを作成 ※時間内に提出	(3) レポート① 資料1 (4症例) を呈示 各自2症例を選択し レポートを作成 ※時間内に提出	(4) レポート① 資料1 (4症例) を呈示 各自2症例を選択し レポートを作成 ※時間内に提出	11:00 (5) 講義 「耳鼻咽喉科の救急疾患と 境界領域疾患」
13:00	(1) レポート② 資料2 (追加資料) を配布 ①で選択した症例につき レポートを作成 ※時間内に提出	(2) レポート② 資料2 (追加資料) を配布 ①で選択した症例につき レポートを作成 ※時間内に提出	(3) レポート② 資料2 (追加資料) を配布 ①で選択した症例につき レポートを作成 ※時間内に提出	(4) レポート② 資料2 (追加資料) を配布 ①で選択した症例につき レポートを作成 ※時間内に提出	運動器系
15:20	(1) レポート症例の解説	(2) レポート症例の解説	(3) レポート症例の解説	(4) レポート症例の解説	
16:30					

ユニット（１）－１ 「聴覚ならびに体平衡の仕組み」

担当教員：堀井・泉・大島(伸)・山岸・八木・甲斐

到達目標：聴覚ならびに体平衡のしくみを理解し、それぞれの機能を検査し評価方法を習得する。

アウトカム：

1. 音が外耳から入り中耳、内耳を経て聴覚中枢に至るまでの経路を説明できる。
2. 純音聴力検査、インピーダンスオージオメトリーを実施し、結果を説明できる。
3. 語音聴力検査、聴性脳幹反応検査の適応と結果を説明できる。
4. 内耳で受容する加速度の種類と対応する受容器を説明できる。
5. 前庭脊髄反射、前庭動眼反射と体のバランスを取るしくみを説明できる。
6. 平衡機能検査を前庭脊髄反射、前庭眼反射別に列挙し、概略を説明できる。
7. 眼振のメカニズムと観察方法を説明し、所見を取り、病変部位を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

堀井 新（耳鼻咽喉科、2306、ahorii@med.niigata-u.ac.jp）

泉 修司（耳鼻咽喉科、2306、izumi@med.niigata-u.ac.jp）

大島 伸介（耳鼻咽喉科、2306、otoshin5058@gmail.com）

山岸 達矢（耳鼻咽喉科、2306、yama-ent@med.niigata-u.ac.jp）

八木 千裕（耳鼻咽喉科、2306、c-yagi@med.niigata-u.ac.jp）

甲斐 竜太（耳鼻咽喉科、2306、rkai-nii@outlook.jp）

ユニット（１）-2 「外耳・中耳」

担当教員：堀井・泉・大島(伸)・山岸・八木・甲斐

到達目標：外耳、中耳の構造と機能、および隣接臓器との関係を理解し、主な疾患の診断、治療についての基礎知識とこれら疾患の基本的問題解決法を修得する。

アウトカム：

1. 外耳、中耳の解剖と機能を説明できる。
2. 耳痛をきたす疾患の病態、鑑別診断と治療を説明できる。
3. 耳漏をきたす疾患の病態、鑑別診断と治療を説明できる。
4. 伝音難聴をきたす疾患の病態、鑑別診断と治療を説明できる。
5. 急性中耳炎および滲出性中耳炎の病態、症候と治療を説明できる。
6. 慢性中耳炎および中耳真珠腫の病態、症候と治療を説明できる。
7. 中耳奇形および耳硬化症の病態、症候と治療を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

堀井 新（耳鼻咽喉科 2306、ahorii@med.niigata-u.ac.jp）

泉 修司（耳鼻咽喉科 2306、izumi@med.niigata-u.ac.jp）

大島 伸介（耳鼻咽喉科 2306、otoshin5058@gmail.com）

山岸 達矢（耳鼻咽喉科 2306、yama-ent@med.niigata-u.ac.jp）

八木 千裕（耳鼻咽喉科、2306、c-yagi@med.niigata-u.ac.jp）

甲斐 竜太（耳鼻咽喉科、2306、rkai-nii@outlook.jp）

ユニット（２）-1 「内耳・聴神経・聴覚中枢」

担当教員：堀井・泉・大島(伸)・山岸・八木・甲斐

到達目標：内耳および聴神経の障害による疾患の病態生理、診断と治療について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を修得する。

アウトカム：

1. 急性感音難聴をきたす疾患の病態、鑑別診断と治療を説明できる。
2. 騒音性難聴および薬剤性難聴の原因と病態を説明できる。
3. 老人性難聴について概説できる。
4. 先天性高度難聴児の診断と対策について概説できる。
5. 聴神経腫瘍の病態、症候と治療を説明できる。
6. 補聴器と人工内耳について概説できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

堀井 新（耳鼻咽喉科 2306、ahorii@med.niigata-u.ac.jp）

泉 修司（耳鼻咽喉科 2306、izumi@med.niigata-u.ac.jp）

大島 伸介（耳鼻咽喉科 2306、otoshin5058@gmail.com）

山岸 達矢（耳鼻咽喉科 2306、yama-ent@med.niigata-u.ac.jp）

八木 千裕（耳鼻咽喉科、2306、c-yagi@med.niigata-u.ac.jp）

甲斐 竜太（耳鼻咽喉科、2306、rkai-nii@outlook.jp）

ユニット（２）-２ 「めまい・顔面神経」

担当教員：堀井・泉・大島(伸)・山岸・八木・甲斐

到達目標：めまい・顔面神経麻痺の原因、病態生理、診断と治療について理解し、これらの問題解決法の基本を修得する。

アウトカム：

1. 急性めまい疾患の鑑別診断と的確な対応を説明できる。
2. メニエール病、良性発作性頭位眩暈症と前庭神経炎の病態を説明できる。
3. めまい疾患に対して適切な治療計画を立てることができる。
4. 顔面神経の走行と機能を説明できる。
5. 顔面神経麻痺の部位診断と予後診断を説明できる。
6. 顔面麻痺をきたす諸疾患を概説し、主な疾患の治療を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

堀井 新（耳鼻咽喉科 2306、ahorii@med.niigata-u.ac.jp）

泉 修司（耳鼻咽喉科 2306、izumi@med.niigata-u.ac.jp）

大島 伸介（耳鼻咽喉科 2306、otoshin5058@gmail.com）

山岸 達矢（耳鼻咽喉科 2306、yama-ent@med.niigata-u.ac.jp）

八木 千裕（耳鼻咽喉科、2306、c-yagi@med.niigata-u.ac.jp）

甲斐 竜太（耳鼻咽喉科、2306、rkai-nii@outlook.jp）

ユニット（3）-1 「鼻・副鼻腔」

担当教員：岩井・若杉

到達目標：鼻・副鼻腔の解剖、生理、症候と原因疾患ならびに治療を理解し、これらの問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 鼻副鼻腔の解剖と機能を理解し説明できる。
2. 鼻閉をきたす疾患の病態、鑑別診断と治療を説明できる。
3. 嗅覚障害をきたす疾患の病態、鑑別診断と治療を説明できる。
4. 視器障害をきたす鼻副鼻腔疾患を列挙し、病態、鑑別診断と治療を説明できる。
5. 慢性副鼻腔炎、鼻アレルギーの病態と症候、治療を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

岩井 玄樹（耳鼻咽喉科 2306、dousiiwai@yahoo.co.jp）

若杉 亮（耳鼻咽喉科 2306、young_japanese_cedar@yahoo.co.jp）

ユニット（3）-2 「口腔咽喉頭・良性疾患」

担当教員：岩井・若杉

到達目標：口腔咽喉頭の解剖、炎症性疾患、良性疾患を理解し、問題解決の基本を習得する。

アウトカム：

1. 口腔咽喉頭、唾液腺の解剖と機能を理解し説明できる。
2. 味覚伝導路ならびに味覚障害の原因、検査と治療を説明できる。
3. 扁桃炎症性疾患（扁桃周囲膿瘍を含む）の原因、検査と治療を説明できる。
4. 扁桃病巣感染症の代表的疾患を挙げ、検査法、診断と治療を説明できる。
5. 唾液腺疾患、シェーグレン症候群の病態、検査と診断を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

岩井 玄樹（耳鼻咽喉科 2306、dousiiwai@yahoo.co.jp）

若杉 亮（耳鼻咽喉科 2306、young_japanese_cedar@yahoo.co.jp）

(3) -3 「口腔咽喉頭・機能性疾患」

担当教員：岩井・若杉

到達目標：口腔咽喉頭の機能である、呼吸、発声、嚥下について理解し、問題解決の基本を習得する。

アウトカム：

1. 口腔咽喉頭に起因する呼吸障害を理解し説明できる。
2. 睡眠時無呼吸症候群の原因、検査と治療を説明できる。
3. 発声、嚥下機能を理解し説明できる。
4. 嗄声をきたす代表的疾患を挙げ、検査法、診断と治療を説明できる。
5. 嚥下障害をきたす代表的疾患を挙げ、検査法、診断と治療を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

岩井 玄樹（耳鼻咽喉科 2306、dousiiwai@yahoo.co.jp）

若杉 亮（耳鼻咽喉科 2306、young_japanese_cedar@yahoo.co.jp）

ユニット（４）-1 「頭頸部腫瘍・咽喉頭」

担当教員：植木・正道・尾股・横山

到達目標：咽喉頭腫瘍性疾患の診断と治療に関する問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 咽喉頭腫瘍性疾患の疫学、原因を理解し、説明できる。
2. 咽喉頭腫瘍性疾患の診断と治療を説明できる。
3. 咽喉頭腫瘍性疾患の疫学、原因を理解し、説明できる。
4. 咽喉頭腫瘍性疾患の診断と治療を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

植木 雄志（耳鼻咽喉科 2306、uc-uekin@med.niigata-u.ac.jp）

正道 隆介（耳鼻咽喉科 2306、ryusuke.s.0415@gmail.com）

尾股 丈（耳鼻咽喉科 2306、joeomata@gmail.com）

横山 侑輔（耳鼻咽喉科 2306、yyokoyamaent@gmail.com）

ユニット（４）-2 「頭頸部腫瘍・顔面頸部」

担当教員：植木・正道・尾股・横山

到達目標：顔面頸部腫瘍性疾患の診断と治療に関する問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 甲状腺・上皮小体の解剖と機能を説明できる。
2. 甲状腺・上皮小体腫瘍の疫学、症候、診断と治療を説明できる。
3. 頸部腫瘍の疫学と鑑別診断を説明できる。
4. 頸部郭清術の概念と手術手技を説明できる。
5. 鼻・副鼻腔腫瘍の疫学、症候、診断と治療を説明できる。
6. 唾液腺腫瘍の疫学、症候、診断と治療を説明できる。

学習方法：

学習方法（共通）を参照

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

植木 雄志（耳鼻咽喉科 2306、uc-uekin@med.niigata-u.ac.jp）

正道 隆介（耳鼻咽喉科 2306、ryusuke.s.0415@gmail.com）

尾股 丈（耳鼻咽喉科 2306、joeomata@gmail.com）

横山 侑輔（耳鼻咽喉科 2306、yyokoyamaent@gmail.com）

ユニット（５） 「耳鼻咽喉科の救急疾患と境界領域疾患」

担当教員：植木・正道・山岸・岩井

到達目標：耳鼻咽喉科救急疾患の診断と治療に関する問題解決法の基本を習得する。

耳鼻咽喉科が扱う関連他科との境界領域に位置する疾患について理解する。

アウトカム：

1. 痛みをきたす耳鼻咽喉科救急疾患の診断と治療を説明できる。
2. 出血をきたす耳鼻咽喉科救急疾患の診断と治療を説明できる。
3. 呼吸障害をきたす耳鼻咽喉科救急疾患の診断と治療を説明できる。
4. 異物に関する耳鼻咽喉科救急疾患の診断と治療を説明できる。
5. 耳鼻咽喉科と関連他科の境界領域を理解し、その中で耳鼻咽喉科が扱う疾患について説明できる。

学習方法：

講義

質問担当教員：（所属、内線、メールアドレス）

植木 雄志（耳鼻咽喉科 2306、uc-uekin@med.niigata-u.ac.jp）

正道 隆介（耳鼻咽喉科 2306、ryusuke.s.0415@gmail.com）

山岸 達矢（耳鼻咽喉科 2306、yama-ent@med.niigata-u.ac.jp）

岩井 玄樹（耳鼻咽喉科 2306、dousiiwai@yahoo.co.jp）

ユニット（6） 「耳鼻咽喉科領域の最新研究と未来」

担当教員：堀井・泉・大島(伸)・甲斐

到達目標：耳鼻咽喉科領域の最新の知見を得て、将来性を知る。

アウトカム：

1. 聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚を扱う、感覚器のエキスパートとしての耳鼻咽喉科の最新の知見を理解できる。
2. アレルギー、呼吸、摂食、嚥下を扱う、生活の質、生命機能維持に関わる耳鼻咽喉科の最新の知見を理解できる。
3. 聴覚、言語、音声というコミュニケーションに関わる耳鼻咽喉科の最新の知見を理解できる。

学習方法：

講義

質問担当教員：(所属、内線、メールアドレス)

堀井 新 (耳鼻咽喉科 2306、ahorii@med.niigata-u.ac.jp)

泉 修司 (耳鼻咽喉科 2306、izumi@med.niigata-u.ac.jp)

大島 伸介 (耳鼻咽喉科 2306、otoshin5058@gmail.com)

甲斐 竜太 (耳鼻咽喉科、2306、rkai-nii@outlook.jp)

コース (15) 「運動器系」

担当教室：整形外科、形成外科、病理

到達目標：臨床医学の学習を円滑に行うために、主な運動器疾患の基本知識を習得し、初歩的な問題解決能力を身につける。

ユニット：

- 1 「骨・軟骨・関節・筋・神経の基礎科学（構造と機能）」
- 2 「先天性骨系統疾患、骨粗鬆症、長寿社会、整形外科再生医療」
- 3 「骨折、関節脱臼、靭帯損傷、スポーツ外傷」
- 4 「脊椎脊髄疾患」
- 5 「変形性関節症、関節炎」
- 6 「骨軟部腫瘍の診断と治療」
- 7 「手・上肢疾患、末梢神経障害」
- 8 「小児整形」

【生成 AI の利用について】

本科目では、生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

臓器別統合コース：コース（15）「運動器系」時間割

時間	9/9(水)	9/10(木)	9/11(金)	9/14(月)	9/15(火)	9/16(水)	9/17(木)	9/18(金)
8:30-9:30		⑥講義「骨腫瘍の病理」 生越特任教授	②講義「慢性疼痛へのアプローチと対策」 木村病院教授	②講義「ロコモ、フレイル、サルコペニア」 川島教授	補講	⑦講義「肩関節疾患」 望月講師	⑥講義「悪性骨腫瘍の診断と治療」 大池助教	②講義「骨粗鬆症」 今井特任教授
9:40-10:40	耳鼻頭頸	⑥講義「骨腫瘍の病理」 生越特任教授	補講	②講義「プライマリ・ケアに必要な整形外科的知識1」 川島教授	⑧講義「小児整形」 村上特任准教授	③講義「スポーツ医学①」 望月講師	⑥講義「悪性軟部腫瘍の診断と治療」 有泉助教	②講義「骨粗鬆症薬物療法」 今井特任教授
10:50-11:50		⑥講義「軟部腫瘍の病理」 生越特任教授	補講	②講義「プライマリ・ケアに必要な整形外科的知識2」 川島教授	②講義「骨系統疾患」 村上特任准教授	③講義「スポーツ医学②」	⑥講義「悪性軟部腫瘍の診断と治療」 有泉助教	試験
13:00-14:00	ガイダンス ①講義「骨と関節の基礎科学」 有泉助教	⑥病理実習スケッチ 提出 生越特任教授	②講義「整形外科再生医療」 目良特任講師	④講義「脊椎脊髓の解剖」 田仕特任助教	①講義「頭部、顔面部の局所解剖」 松田教授	⑤講義「股関節疾患」 堀米特任助教	④講義「脊椎レベルの高位診断と横位診断」 大橋准教授	
14:05-15:05	①講義「整形外科総論」 有泉助教	⑥病理実習スケッチ 提出 生越特任教授	⑦講義「手・肘関節疾患」 依田特任助教	④講義「脊椎脊髓の腫瘍・炎症性疾患」 田仕特任助教	③講義「外傷学総論」 渡辺要助教	⑤講義「股関節疾患」 堀米特任助教	④講義「脊椎変性疾患」 大橋准教授	免疫系
15:10-16:20	①講義「運動器画像診断」 有泉助教	⑥病理実習スケッチ 提出 生越特任教授	⑦講義「末梢神経障害」 依田特任助教	④講義「脊椎外傷」 田仕特任助教	③講義「外傷学各論」 渡辺要助教	⑤講義「変形性関節症」 高木助教	④講義「脊柱変形」 大橋准教授	

ユニット①「骨・軟骨・関節・筋・神経の基礎科学（構造と機能）」

担当：有泉高志（整形）、松田健（形成）

到達目標：日常活動に関与する運動器を骨—関節—筋肉—神経機構(bone-joint-muscle-nerve system)という一連の運動機能体としてとらえ、個々の構造と機能および病的変化のメカニズムについての基本知識を習得する。また、運動器の画像診断の基礎を理解する

アウトカム：

1. 骨の基本構造を図示して説明できる。
2. 関節の構造を図示して説明できる。
3. 骨格筋の構造と機能を説明できる。
4. 神経の構造と機能を説明できる。
5. 関節軟骨の構造と機能を説明できる。
6. 滑膜・関節液の構造と機能を説明できる。
7. 骨化と骨の発育を説明できる。
8. 骨芽細胞と破骨細胞の発生と分化を説明できる。
9. 頭部・顔面の骨の構成を説明できる。
10. 運動器疾患の評価の基礎となる画像診断の種類と原理を説明できる。また正常所見及び異常所見について説明できる

学習方法：

1. 講義「骨・関節の基礎科学」、「整形外科総論」、「運動器画像診断」、「頭部・顔面骨の局所解剖」を聴講する。
2. 2年次「人体の構造と機能」で学習した骨・関節の構造と機能について各自復習を行う。
3. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
4. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

有泉 高志（2272、ari2075@med.niigata-u.ac.jp）

松田 健（2592、matsuken@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「骨系統疾患、骨粗鬆症、長寿社会、整形外科再生医療」

担当：村上玲子（整形）、今井教雄（整形）、木村慎二（リハ）、目良恒（整形）、川島寛之（整形）

到達目標：全身の骨に系統的変化をきたす疾患の病態を理解し、診断の基本を習得する。また、長寿社会における問題点、骨粗鬆症の病態、臨床的特徴と治療を理解し、これらの問題解決法の基本を習得する。さらに、近年の再生医療の運動器への応用を理解する。

アウトカム：

1. 骨系統疾患の主な疾患を列挙し、それぞれの病態と臨床的特徴を説明できる。
2. 原発性骨粗鬆症の定義および診断マニュアルを説明でき、基本的治療を説明できる。
3. 運動器の分野における再生医療の応用について、例を挙げて説明できる。

学習方法：

1. 講義「骨粗鬆症」、「骨系統疾患」、「整形外科再生医療」、「ロコモ、フレイル、サルコペニア」、「慢性疼痛へのアプローチと対策」、「プライマリ・ケアに必要な整形外科的知識」を聴講する。
2. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
3. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

村上 玲子（2272、reiko-t@kf6.so-net.ne.jp）
今井 教雄（2272、imainorio2001@yahoo.co.jp）
木村 慎二（2742、skimura@med.niigata-u.ac.jp）
目良 恒（2272、hisme0214@gmail.com）
川島 寛之（2272、inskawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット③「骨折、関節脱臼、靭帯損傷、スポーツ外傷」

担当：高木繁（整形）、渡辺要（高次救急災害治療センター）、望月友晴（整形）

到達目標：骨折、関節脱臼、靭帯損傷といった代表的な整形外科外傷の病態と臨床像を理解し、これらの疾患における診断、治療を含めた問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 四肢の骨・関節を列挙し、その配置と構成を図示できる。
2. 骨折の分類と治癒過程を説明できる。
3. 骨折の治療原則と骨接合の原理を説明できる。
4. 四肢開放骨折の病態と分類を説明できる。
5. 小児に見られる骨折の特徴と骨端線損傷の分類を説明できる。
6. 骨折の主な合併症の種類と内容を説明できる。
7. 関節の脱臼・亜脱臼の病態、診断、治療の基本を説明できる。
8. 捻挫・靭帯損傷の病態、診断、治療の基本を説明できる。
9. スポーツ外傷の病態、診断、治療の基本を説明できる。

学習方法：

1. ユニット②と同じ。ただし講義は「外傷学総論」、「外傷学各論」、「靭帯損傷」、「スポーツ医学」。
2. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
3. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

高木 繁（2272、m01a045c-shigeru@hotmail.co.jp）

渡邊 要（2272、yo.paco.1980.10.19@icloud.com）

望月 友晴（2272、tommochi121710@gmail.com）

ユニット④「脊椎脊髄疾患」

担当：大橋 正幸（整形） 田仕 英希（整形）

到達目標：脊椎脊髄疾患の病態を理解し、診断法と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 椎骨の構造を図示し、脊柱の構成を説明できる。
2. 四肢の主要筋群の機能と神経支配を説明できる。
3. 徒手筋力検査と知覚検査の方法を説明し、実施できる。
4. 脊椎脊髄疾患の画像検査法の種類と適応を説明できる。
5. 脊椎脊髄疾患の発生と神経刺激機序および高位診断と横位診断を説明できる。
6. 脊椎脊髄疾患の治療法を列挙し、それぞれの特徴と適応を説明できる。
7. 脊柱変形の分類と治療法を説明できる。
8. 脊椎脊髄外傷の特徴を説明できる。

学習方法：

1. ユニット②と同じ。ただし、講義は「脊椎脊髄の解剖」、「脊椎レベルの高位診断と横位診断」、「脊椎外傷」、「脊椎変性疾患」、「脊椎脊髄の腫瘍・炎症性疾患」、「脊柱変形」。
2. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
3. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

大橋 正幸 (2272、masayuki-ohasi@ksh.biglobe.ne.jp)

田仕 英希 (2272、htassy0711@yahoo.co.jp)

ユニット⑤「変形性関節症、関節炎」

担当：堀米 洋二（整形外科）、高木 繁（整形外科）

到達目標：変形性関節症および関節炎の病態と臨床像を理解し、診断と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 関節の構成と機能を説明できる。
2. 骨盤の構成と性差、成長に伴う姿勢や下肢アライメントの変化を説明できる。
3. 関節可動域、安定性の検査を実施し、評価できる。
4. 変形性関節症の定義、病態と臨床像を説明できる。
5. 変形性関節症の治療を列挙し、その基本的内容と適応を説明できる。
6. 関節炎の原因、病態と臨床的特徴を説明できる。
7. 関節炎をきたす疾患を列挙し、診断に必要な検査とその意義を説明できる。
8. 関節炎をきたす疾患の治療の基本を説明できる。
9. 人工関節の利点、欠点を説明できる。

学習方法：

1. ユニット②と同じ。ただし、講義は「変形性関節症」、「下肢変形矯正・脚延長」、「股関節疾患」。
2. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
3. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

堀米 洋二（2272、dxcjn172@yahoo.co.jp）

高木 繁（2272、m01a045c-shigeru@hotmail.co.jp）

ユニット⑥「骨軟部腫瘍の診断と治療」

担当：生越 章（整形）、川島 寛之（整形）、梅津 哉（病理）、
有泉 高志（整形）、大池 直樹（整形）

到達目標：骨軟部腫瘍の種類や病態の基礎知識を習得し、代表的疾患について診断と治療の問題解決能力を身につける。

アウトカム：

1. 代表的な骨腫瘍、軟部腫瘍の好発年齢と好発部位を説明できる。
2. 骨腫瘍・軟部腫瘍診断に必要な検査法を列挙し、その目的と内容を説明できる。
3. 代表的な骨腫瘍と軟部腫瘍の病理組織所見を説明できる。
4. 日本整形外科学会の骨・軟部腫瘍取り扱い規約による腫瘍切除の原則を説明できる。
5. 骨軟部腫瘍における遺伝子診断の重要性を説明できる。
6. 骨肉腫の診断と鑑別疾患について病理所見を含めて説明できる。
7. 骨肉腫の治療について手術療法と化学療法の点から説明できる。
8. ユーイング肉腫と骨巨細胞腫の病態、診断と治療の基礎を説明できる。

学習方法：

1. 講義「骨腫瘍の病理」、「悪性骨腫瘍の診断と治療」、「悪性軟部腫瘍の診断と治療」を聴講する。
2. 実習：代表的な骨腫瘍、軟部腫瘍の病理組織標本を観察し、主要な所見と特徴を記載する。実習終了後、各個人が実習スケッチを提出する。
3. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
4. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

生越 章（2272、aogose@med.niigata-u.ac.jp）
川島 寛之（2272、inskawa@med.niigata-u.ac.jp）
梅津 哉（2693、umezu@med.niigata-u.ac.jp）
有泉 高志（2272、arii2075@med.niigata-u.ac.jp）
大池 直樹（2272、naoki1112y@gmail.com）

ユニット⑦「手・上肢疾患、末梢神経障害」

担当：依田 拓也（整形）、望月 友晴（整形）

到達目標：手、肘、肩などの上肢における運動器疾患の病態と臨床像を理解し、診断と治療の基本を習得する。外傷性および慢性の末梢神経障害を理解し、これらの疾患の診断、病態と治療の基本を習得する。

アウトカム：

1. 手の解剖学的特徴や機能的特徴について説明できる。
2. 手の代表的な外傷性疾患と非外傷性疾患を列記し、その病態と治療を説明できる。
3. 肘関節の代表的な外傷性疾患と非外傷性疾患を列記し、その病態と治療を説明できる。
4. 肩の解剖学的特殊性について説明できる。
5. 肩関節の代表的な外傷性疾患と非外傷性疾患を列記し、その病態と治療を説明できる。
6. 末梢神経障害の分類と病態を説明できる。
7. 神経障害の部位決定のための検査法を列挙し、それらの検査の内容と目的を説明できる。
8. 外傷性腕神経叢麻痺の分類と病態、診断と治療法の基本を説明できる。
9. 絞扼性神経障害について列挙し、病態と治療の基本を説明できる。

学習方法：

1. 講義「手・肘関節疾患」、「肩関節疾患」、「末梢神経障害」を聴講する。
2. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
3. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

依田 拓也（2272、takuya.yoda@yahoo.co.jp）

望月 友晴（2272、tommochi121710@gmail.com）

ユニット⑧「小児整形」

担当：村上 玲子（整形）

到達目標：発育性股関節形成不全、内反足、斜頸といった小児期の重要な運動器疾患の病態、臨床的特徴について理解し、これらの疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 発育性股関節形成不全の原因、病態、診断と治療を説明できる。
2. 内反足の原因、病態、診断と治療を説明できる。
3. 斜頸の原因、病態、診断と治療を説明できる。

学習方法：

1. 講義「小児整形外科」を聴講する。
2. 質問があるときは、質問担当教官に直接あるいは電話やメールでアポイントを取り、指定の時間、場所にて行う。
3. コース末の筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

村上 玲子（2272、reiko-t@kf6.so-net.ne.jp）

コース (16) 「免疫系」

担当教室：腎・膠原病内科、整形外科、皮膚科、呼吸器・感染症内科、耳鼻咽喉科

到達目標：全身性の自己免疫疾患の病態生理、症候、診断と治療についての基本的知識を修得する。

ユニット：

- | | |
|------------------|------------|
| ① 自己免疫疾患総論 | |
| ② 血管炎症候群、その他 | 症例 1, 2, 3 |
| ③ 全身性エリテマトーデス | 症例 4 |
| ④ ベーチェット病 | 症例 5 |
| ⑤ 関節リウマチ | 症例 6 |
| ⑥ 強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎 | 症例 7, 8 |

学習方法：

1. 各講義を聴講する。
2. コース末の筆記試験で評価を受ける。
3. グループ学習を行い、レポートとプレゼン ppt を作成する。

グループ学習について

グループ学習 1-4 では各グループに症例を 2 つ割り当てる。うち 1 つはプレゼン症例、うち 1 つはレポート症例である。

- 1) グループ学習開始時に、リーダー 1 名、発表者 1 名、記録者 1 名、を決める。
- 2) 提示された 4 症例のうち、教員から割り振られた 2 症例について、まず、web で配布された資料（臓器別症例 1-4）の問いを考えて下さい。
- 3) 約 1 時間後に追加資料のパスワードお伝えします。それを基に更に考えを深めて下さい。スタッフが回りますので質問があればどうぞ。
- 4) 各自が調べた内容と追加資料をもとにグループ学習を行い、担当した 2 症例について診断、鑑別診断、さらに治療方針をまとめ、個人としてのレポート 1 症例を作成する。
- 5) もう 1 つの症例について、グループでパワーポイントで発表形式にまとめる。疾患総論のスライドを 1-2 枚。あとは問いに答える感じで作成してください。発表時間は 7 分、質疑応答 3 分を予定しています。
- 6) 4 グループによる症例発表会を行う。他グループからの質問を受け、討議する。
- 7) 発表会終了後、記録者は発表した 1 症例の発表プロダクトを、提出する。
レポートは翌日 21:00 までに指定されたメールアドレスに提出する。

グループ学習 5-8 も同様に行います。

令和8年度臓器別講義免疫系	担当科	担当教員
1 9/18(金) 13:00-14:30	腎・膠原病内科	黒田毅
2 9/18(金) 14:50-16:20	腎・膠原病内科	野澤由貴子
3 9/24(木) 8:30-10:00	腎・膠原病内科	長谷川絵理子
4 9/24(木) 10:20-11:50	腎・膠原病内科	長谷川絵理子
5 9/24(木) 13:00-14:30	耳鼻咽喉科	甲斐竜太
6 9/24(木) 14:50-16:20	腎・膠原病内科	野澤由貴子
7 9/25(金) 8:30-10:00	腎・膠原病内科	佐藤弘恵
8 9/25(金) 10:20-11:50	腎・膠原病内科	佐藤弘恵
9 9/25(金) 13:00-14:30	呼吸器感染症内科	島賢治郎
10 9/25(金) 14:50-16:20	腎・膠原病内科	野澤由貴子
11 9/28(月) 8:30-10:00	腎・膠原病内科	小林大介
12 9/28(月) 10:20-11:50	腎・膠原病内科	佐伯敬子
13 9/28(月) 13:00-14:30	整形外科	近藤直樹
14 9/28(月) 14:50-16:20	整形外科	近藤直樹
15 9/29(火) 8:30-10:00	腎・膠原病内科	坂井俊介/長谷川絵理子
16 9/29(火) 10:20-11:50	腎・膠原病内科	坂井俊介/佐藤弘恵
17 9/29(火) 13:00-14:30	皮膚科	藤原浩
18 9/29(火) 14:50-16:20	腎・膠原病内科	黒田毅
19 9/30(水) 8:30-10:00	腎・膠原病内科	伊藤聡
20 9/30(水) 10:20-11:50	腎・膠原病内科	若松彩子/小林大介
21 9/30(水) 13:00-14:30	腎・膠原病内科	若松彩子/小林大介
22 9/30(水) 14:50-16:20	腎・膠原病内科	若松彩子/黒田毅

令和8年度免疫系グループ学習	担当科
1 SLE	腎・膠原病内科
2 高安動脈炎	腎・膠原病内科
3 ANCA関連血管炎	腎・膠原病内科
4 成人スチル病	腎・膠原病内科
5 関節リウマチ	腎・膠原病内科
6 強皮症	腎・膠原病内科
7 多発性筋炎/皮膚筋炎	腎・膠原病内科
8 ベーチェット病	腎・膠原病内科

ユニット① 「自己免疫疾患総論」

担当教員：黒田毅（保健管理センター）

到達目標：全身性の自己免疫疾患について病態生理、症候について学ぶ。

アウトカム：

1. 膠原病と自己免疫疾患について概説し、その種類を列挙できる。
2. 関節炎をきたす疾患を列挙できる。
3. 膠原病で認められる症状を説明し、原因疾患を列挙できる。
4. 自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。
5. 自己免疫疾患の病理を理解できる。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

小林 大介（2200、kobayahsi-d@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット② 「関節リウマチとその類縁疾患」 症例6

担当教員：近藤直樹（整形外科）、伊藤聡（新潟県立リウマチセンター）、
黒田毅（保健管理センター）

到達目標：関節リウマチとその類縁疾患の患者のみかたを学び、これらの病態と臨床を理解し、
これら疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 関節リウマチの診断のための診察、X線所見、検査の基本を説明できる。
2. 関節リウマチの臓器病変（関節外症状）を説明できる。
3. 関節リウマチの内科的治療法を概説できる。
4. 関節リウマチの外科的療法を概説できる。
5. 悪性関節リウマチの診断基準を説明できる。
6. リウマトイド因子陰性の脊椎関節症を説明できる。
7. 関節炎患者のリハビリテーションを概説できる。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

近藤 直樹(2272、naokikondo1214@gmail.com)

ユニット③

「全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、混合性結合組織病」 症例 4

担当教員：野澤由貴子（保健管理センター）、佐藤弘恵（保健管理センター）、長谷川絵理子（腎・膠原病内科）

到達目標：全身性エリテマトーデス（SLE）、抗リン脂質抗体症候群（APS）、混合性結合組織病（MCTD）のみかたを学び、これらの病態と臨床を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 全身性エリテマトーデスの病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
2. 全身性エリテマトーデスの臓器合併症（特にループス腎炎）を説明できる。
3. 抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
4. 混合性結合組織病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

小林 大介（2200、kobayahsi-d@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット④

「強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎」 症例 7, 8

担当教員：藤原浩（皮膚科）、野澤由貴子（保健管理センター）

到達目標：強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎のみかたを学び、これらの病態と臨床を理解し、これら疾患の問題解決法の基本を習得する。

アウトカム：

1. 強皮症の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
2. 強皮症の臓器病変（特に肺・腎）を説明できる。
3. 皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断と治療を説明できる。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

小林 大介（2200、kobayahsi-d@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑤

「膠原病の皮膚病変、呼吸器病変、耳鼻咽喉病変」

「血管炎症候群、シェーグレン症候群、自己炎症性疾患」 症例1, 2, 3, 5

担当教員：藤原浩（皮膚科）、島賢治郎（呼吸器・感染症内科）、甲斐竜太（耳鼻咽喉科）、
佐伯敬子（腎・膠原病内科/長岡赤十字病院）、小林大介（腎・膠原病内科）、
佐藤弘恵（保健管理センター）、野澤由貴子（保健管理センター）

到達目標：1. 膠原病の皮膚病変、呼吸器病変、耳鼻咽喉病変について理解する。2. 血管炎症候群、
シェーグレン症候群、ベーチェット病その他のみかたを学び、これらの病態と臨床を理
解する。

アウトカム：

1. 膠原病の皮膚病変、呼吸器病変、耳鼻咽喉病変について概説できる。
2. ANCA 関連血管炎の種類、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
3. 高安動脈炎、側頭動脈炎、結節性多発動脈炎の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
4. シェーグレン症候群と関連疾患について概説できる。
5. ベーチェット病、成人スチル病や自己炎症性疾患について概説できる。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

小林 大介（2200、kobayahsi-d@med.niigata-u.ac.jp）

コース（17） 放射線医学各論

担当教室：放射線医学教室

到達目標：

臨床医学の学習を円滑に行うために、画像診断学・放射線腫瘍学の臨床上の基本的知識と初歩的な問題解決能力を修得する。

ユニット：

- ① 画像診断学各論
- ② 放射線腫瘍学各論
- ③ 画像下治療（IVR）
- ④ 核医学

学習方法：

- 1. 講義形式（1コマ＝90分）で行う。
- 2. コース終了時に筆記試験を行い、評価を行う。
- 3. 2/3以上の講義出席がない場合には、評価の対象とならない。
- 4. 中途退室は出席と認めない。
- 5. 不足の行動目標は、自己学習する。

臓器別統合コース：コース(17)「放射線医学各論」時間割

2026/10/1 木		2026/10/2 金		2026/10/5 月		2026/10/6 火	
8:30	ユニット① 講義：「腫瘍1」 (担当 放射線治療医) 8:30～10:00	ユニット① 講義：「腫瘍2」 (担当 放射線治療医) 10:20～11:50	ユニット① 講義：「腫瘍3」 (担当 放射線治療医) 13:00～14:30	ユニット① 講義：「腫瘍4」 (担当 放射線治療医) 14:50～16:20	ユニット② 講義：「画像診断1」 (担当 放射線治療医) 8:30～10:00	ユニット② 講義：「画像診断2」 (担当 放射線治療医) 10:20～11:50	ユニット② 講義：「画像診断3」 (担当 放射線治療医) 13:00～14:30
11:50					ユニット② 講義：「画像診断4」 (担当 放射線治療医) 8:30～10:00	ユニット② 講義：「画像診断5」 (担当 放射線治療医) 10:20～11:50	ユニット② 講義：「画像診断6」 (担当 放射線治療医) 13:00～14:30
13:00					ユニット② 講義：「画像診断7」 (担当 放射線治療医) 14:50～16:20	ユニット② 講義：「画像診断8」 (担当 放射線治療医) 14:50～16:20	ユニット② 講義：「画像診断9」 (担当 放射線治療医) 14:50～16:20
16:20							

※ 予定は仮。コース開始時に最新の予定表を提示するので、確認すること。

ユニット① 「画像診断学各論」

担当教員：石川浩志、堀井陽祐、山崎元彦、佐藤 卓、八木琢也、
佐藤 健、平田哲大

到達目標：様々な画像検査の基本的知識や、各種疾患・症状ごとの画像診断の適応を理解し、画像検査の結果が解釈できる総合的な画像診断能力を習得する。

アウトカム：

1. 各領域（循環器・呼吸器・消化器・中枢神経・骨軟部・乳腺・腹部骨盤部・救急など）における画像診断法の特徴を説明できる。
2. 各領域における画像診断の適応を説明できる。
3. 各領域の common disease について、画像診断所見の特徴を説明し、鑑別疾患を挙げることができる。
4. 治療方針決定における画像診断の役割を説明できる。
5. 全人的医療の実践に必要な画像診断のリスクを知り、画像診断法の安全な適応を理解することができる。

学習方法：

1. 講義を聴講する。
2. コース終了時に確認試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

石川 浩志 (2315、iskw@med.niigata-u.ac.jp)
堀井 陽祐 (2315、y-horii@med.niigata-u.ac.jp)
山崎 元彦 (2315、myamazak@med.niigata-u.ac.jp)
佐藤 卓 (2315、suguru-s@med.niigata-u.ac.jp)
八木 琢也 (2315、yagitaku@med.niigata-u.ac.jp)
佐藤 健 (2315、kensato0120xxx.am2n@niigata-u.ac.jp)
平田 哲大 (2315、htetsu@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット② 「放射線腫瘍学各論」

担当教員：海津元樹、阿部 英輔、太田 篤、中野智成

到達目標：放射線腫瘍学および放射線治療の基本的知識、主な疾患に対する放射線治療の適応・手法・合併症を理解し、全人的医療の実践に必要な腫瘍学の知識を習得する。

アウトカム：

1. がん治療における放射線治療の原理と役割を説明できる。
2. 代表的悪性腫瘍の標準的治療を説明できる。
3. 放射線治療の適応・副作用について説明できる。

学習方法：

1. 講義を聴講する。
2. コース終了時に筆記試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

海津 元樹 (2315、kaidu@med.niigata-u.ac.jp)

阿部 英輔 (2315、eabe@med.niigata-u.ac.jp)

太田 篤 (2315、aohta@med.niigata-u.ac.jp)

中野 智成 (2315、t-nakano@med.niigata-u.ac.jp)

ユニット③ 「画像下治療（IVR）」

担当教員：堀井陽祐、平田哲大

到達目標：画像下治療(IVR)に関して、臨床上の基本的知識や技術を理解する。

アウトカム：

1. 画像下治療とは何か、具体例を挙げてその概略を説明できる。
2. 画像下治療の適応を説明できる。
3. 画像下治療の診療における役割を説明できる。
4. 画像下治療の合併症を列挙できる。

学習方法：

1. 講義を聴講する。
2. コース終了時に確認試験を受ける。

質問担当教員：（内線、メールアドレス）

堀井 陽祐（2315、y-horii@med.niigata-u.ac.jp）

平田 哲大（2315、htetsu@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット④ 「核医学」

担当教員：佐藤 卓

到達目標：核医学検査法について基本的知識を理解し、総合的な画像診断能力を修得する。

アウトカム(行動目標)：

1. 核医学検査の原理について説明できる。
2. 核医学検査の特徴を列記できる。
3. 各種疾患における核医学検査適応を列記できる。
4. 各種疾患における核医学検査の所見を説明できる。

学習方法：

1. 講義を聴講する。
2. コース終了時に確認試験を受ける。

質問担当教員：(内線、メールアドレス)

佐藤 卓 (2315、suguru-s@med.niigata-u.ac.jp)

コース (18) 「腫瘍学・緩和医療学」

担当分野：腫瘍センター、整形外科、保健学科看護学、
こうなんファミリークリニック

到達目標：

ユニット：

- 1 「腫瘍学総論」
- 2 「緩和医療学総論」
- 3 「緩和医療学各論（症状マネジメント）」
- 4 「ワークショップ1」
- 5 「緩和医療学各論（心理・社会的ケア）」
- 6 「緩和ケア 症例提示」
- 7 「ワークショップ2」
- 8 「終末期ケア」
- 9 「在宅緩和ケア①②」、小テスト

<学習方法>

講義を聴講する

ワークショップに参加する

<注意事項と成績評価の方法>

1. 講義を聴講する
2. レポート提出（ワークショップ①②）と出席3分の2以上で単位認定とする。
3. ワorkshopへの積極的な参加を評価する。
4. レポート作成 & 質疑応答の時間は各自自由に活用することとし、出欠はカウントしない。

<生成 AI の利用について>

本科目では、生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

令和8年度 講義予定表

【腫瘍学・緩和医療学】

月 日	曜	時 間	講 義 内 容	担 当 教 員	
				所 属	氏 名
10月7日	水	8:30～10:00	① 腫瘍学総論	整形外科	川島寛之
		10:20～11:50	② 緩和医療学総論	腫瘍センター	生駒美徳
		13:00～14:30	③ 緩和医療学各論（症状マネジメント）	腫瘍センター	生駒美徳
		14:50～16:20	④ ワークショップ①	腫瘍センター/整形外科	生駒・川島
10月8日	木	8:30～10:00	⑤ 緩和医療学各論（心理・社会的ケア）	腫瘍センター	生駒美徳
		10:20～11:50	⑥ 緩和ケア 症例提示	整形外科	川島寛之
		13:00～14:30	⑦ ワークショップ②	腫瘍センター/整形外科	生駒・川島
		14:50～16:20	レポート作成 & 質疑応答		
10月9日	金	8:30～10:00	レポート作成 & 質疑応答		
		10:20～11:50	⑧ 終末期ケア	保健学科	坂井さゆり
		13:00～14:30	⑨ 在宅緩和ケア①	こうなんファミリークリニック	松本吉史
		14:50～16:20	⑨ 在宅緩和ケア②/小テスト		

ユニット① 「腫瘍学総論」

担当教員：川島 寛之（整形外科）

到達目標：がんの原因、病態生理、疫学について基本的知識を習得する。

アウトカム：

1. がんについて説明できる。
2. がんの疫学について説明できる。
3. がんの原因や予防について説明できる。
4. がんに伴う代謝異常について説明できる。
5. がん救急について説明できる。
6. がん診療に関わる用語について理解できる。

学習方法：

1. 講義「腫瘍学総論」を聴講する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

川島 寛之（Tel: 227-2272 / e-mail : inskawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット②「緩和医療学総論」

担当教員：生駒 美穂（腫瘍センター）

到達目標：緩和ケアの概念・定義を知り、がん治療および医療全体における位置づけを理解する

アウトカム：

- 1.緩和ケアの概念、定義について説明できる。
- 2.全人的苦痛（トータルペイン）に関する包括的アセスメントについて説明できる。
- 3.全人的苦痛（トータルペイン）に対するアプローチ、治療およびケアについて説明できる。
- 4.がん治療および医療全体における、緩和ケアの位置づけと必要性について説明できる。

学習方法：

1. 講義「緩和医療学総論」を聴講する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

生駒 美穂 (Tel: 227-0376 / e-mail : miho.ikoma.mikoma@niigata-u.ac.jp)

ユニット③「緩和医療学各論（症状マネジメント）」

担当教員：生駒 美穂（腫瘍センター）

到達目標：緩和ケアの対象となる患者の身体症状、精神症状、スピリチュアルペインについて、その評価とマネジメントの方法を理解する。

アウトカム：

1. 身体症状を評価する。
2. 身体症状の薬物療法、非薬物療法、ケアについて説明できる。
3. 精神症状を評価する。
4. 精神症状の薬物療法、非薬物療法、ケアについて説明できる。
5. スピリチュアルペインについて説明できる。

学習方法：

1. 講義「緩和医療学各論（症状マネジメント）」を聴講する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

生駒 美穂（Tel:227-0376 / e-mail : miho.ikoma.mikoma@niigata-u.ac.jp）

ユニット④「ワークショップ①」

担当教員：生駒 美穂（腫瘍センター）、川島 寛之（整形外科）

到達目標：緩和ケアについて自分の考えを確認する

アウトカム：

1. 模擬症例を用いて、その全人的苦痛を評価をする
2. 緩和ケアに対する自らの考えを発表、またはレポートとして記述する

学習方法：

1. ワークショップに参加する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

生駒 美穂（Tel: 227-0376 / e-mail : miho.ikoma.mikoma@niigata-u.ac.jp）

川島 寛之（Tel: 227-2272 / e-mail : inskawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑤ 「緩和医療学各論（心理・社会的ケア）」

担当教員：生駒 美穂（腫瘍センター）

到達目標：緩和ケアの対象となる患者の身体症状、精神症状、スピリチュアルペインについて、その評価とマネジメントの方法を理解する。

アウトカム：

- 1.緩和ケアの対象となる患者の心理・社会的苦痛について評価する。
- 2.心理・社会的苦痛に対するケアについて説明できる。
- 3.苦痛緩和のための鎮静（セデーション）について説明できる
- 4.多職種によるチーム医療の重要性を説明できる。
- 5.緩和ケア病棟・ホスピス、看取りの場についての概要を説明できる

学習方法：

1. 講義「緩和医療学各論（心理・社会的ケア）」を聴講する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

生駒 美穂（Tel: 227-0376 / e-mail : miho.ikoma.mikoma@niigata-u.ac.jp）

ユニット⑥「緩和ケア 症例提示」

担当教員：川島 寛之（整形外科）

到達目標：「患者の人生に寄り添う医療とは何か」を自分の言葉で考えられる

アウトカム：

1. 病態・治療・予後の理解
2. 症状評価・意思決定支援の基礎
3. 患者・家族への共感と尊厳の理解
4. 医学・倫理・コミュニケーション・社会的背景を統合して考える力
5. 医療者側が感じる苦痛・苦悩の理解

学習方法：

1. 講義「緩和ケア 症例提示」を聴講する。
2. 感想を自らの言葉で述べる（記述する）。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

川島 寛之（Tel: 227-2272 / e-mail : inskawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑦「ワークショップ②」

担当教員：生駒 美穂（腫瘍センター）、川島 寛之（整形外科）

到達目標：緩和ケアに関する倫理的課題について、そのジレンマを理解し解決方法を探る
アウトカム：

- 1.緩和ケアに関する倫理的な課題について、医療倫理の4原則の立場から述べる。
- 2.模擬症例を用いて、倫理的な課題について様々な立場から解決方法を探る。

学習方法：

- 1.ワークショップに参加する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

生駒 美穂（Tel:227-0376 / e-mail : miho.ikoma.mikoma@niigata-u.ac.jp）

川島 寛之（Tel: 227-2272 / e-mail : inskawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑧「終末期ケア（死が近づいた時）」

担当教員：坂井 さゆり（保健学科看護学）

到達目標：終末期患者の治療とケアについて理解するとともに、「生と死」「看取り」について自らの考えを深める。

アウトカム：

1. 死の過程における兆候について説明できる。
2. 臨死期の症状に対する治療とケア、家族（遺族）ケアについて説明できる。
3. 看護学的視点から終末期ケアを理解する。
4. 「生と死」「看取り」について自らの考えを発表、または記述できる。

学習方法：

1. 講義「終末期ケア（死が近づいた時）」を聴講する。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

川島 寛之（Tel：227-2272 / e-mail：inskawa@med.niigata-u.ac.jp）

ユニット⑨「在宅緩和ケア」

担当教員：松本 吉史（こうなんファミリークリニック）

到達目標：在宅緩和ケアへの理解を深める

アウトカム：

1. 在宅での緩和ケア・看取りについて説明できる。
2. 化学療法が中止となるタイミングを理解する。
3. バッドニュースを伝えるということの意味を理解する。
4. 地域連携の重要性について理解する。
4. 在宅緩和ケアにおける問題点を自ら述べることができる。

学習方法：

1. 講義「在宅緩和ケア」を聴講する。
2. 緩和医療学についての小テストを受ける。

質問担当教員：（電話、メールアドレス）

川島 寛之（Tel: 227-2272 / e-mail : inskawa@med.niigata-u.ac.jp ）

コース (19) 「病理各論Ⅱ」

担当教室：臨床病理学分野

到達目標：疾患の病態を理解するため、臓器別に疾患の分類体系や病因（成因）、発生機序、形態学的特徴（肉眼および組織）、自然史などに関する系統的知識を習得する。

ユニット（単位）：

- ① 「消化器」
- ② 「腎・泌尿器・男性生殖器」
- ③ 「女性生殖器」
- ④ 「乳腺」

学習方法：

1. 講義（対面講義、第3講義室）
講義を聴講する。講義ごとに小テストを行う場合がある。
2. 実習
顕微鏡標本は実習室3で観察する。
実習標本のバーチャルスライドはインターネット配信。
観察所見をプリントにスケッチする。もしくは、細胞・組織像、病態に関する質問または小テストに回答する。
実習は原則として全て出席すること。
欠席の場合は事前に医学科学務係および教員に届け出ること。
3. 試験
筆記試験（大講義室） 7月21日（火） 9:00～11:00
4. 合否判定
筆記試験、実習、小テストを総合的に評価。
ただし、得点率の如何に関わらず、合理的な理由がなく実習を欠席した場合は不合格とする。

担当教員：（内線、メールアドレス）

臨床病理学分野

大橋 瑠子	2096	riuko@med.niigata-u.ac.jp
高村 佳緒里	2096	takamura@med.niigata-u.ac.jp
谷 優佑	2096	tani@med.niigata-u.ac.jp
近藤 修平	2096	skondo@med.niigata-u.ac.jp

2026 (R. 8) 4月7日～7月21日

病理学各論Ⅱ

4月7日 火	4月14日 火	4月21日 火	5月12日 火	5月19日 火	5月25日 月	6月1日 月	6月9日 火
8:30 ユニット①-1 消化器 [消化管] 講義	ユニット①-2 消化器 [消化管] 講義	ユニット①-3 消化器 [消化管] 講義	ユニット①-4 消化器 [肝・胆・膵] 講義	ユニット①-5 消化器 [肝・胆・膵] 講義	ユニット②-1 腎・泌尿器・男性生殖器 [腎・泌尿系] 講義	ユニット②-2 腎・泌尿器・男性生殖器 [腎・泌尿系] 講義	ユニット③-1 女性生殖器 [子宮] 講義
1. 正常解剖と組織 2. 消化管疾患の病理学的分類体系 3. 食道癌	4. 胃炎 5. 胃の腫瘍 6. 大腸腫瘍 7. 小腸腫瘍	8. 炎症性腸疾患	9. 肝胆膵の正常解剖と組織 10. 肝胆膵疾患の病理学的分類体系 11. 胆嚢炎 12. 膵炎 13. 肝炎 14. 肝硬変	15. 胆嚢癌・胆管癌 16. 肝細胞癌 17. 膵癌	1. 泌尿器(尿路系)の正常解剖と組織 2. 尿路系疾患の病理学的分類体系 3. 尿路系の非腫瘍性疾患 4. 尿路上皮癌	5. 前立腺の正常解剖と組織 6. 前立腺疾患の病理学的分類体系 7. 前立腺炎と前立腺肥大症 8. 前立腺癌 9. 男性生殖器の正常解剖と組織 10. 男性生殖器疾患の病理学的分類体系	1. 子宮の正常解剖と組織 2. 子宮疾患の病理学的分類体系 3. 子宮頸部の非腫瘍性疾患 4. 子宮頸部のCINと扁平上皮癌
10:00 休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
10:20 実習	実習	実習	講義	講義	実習	実習	実習
1. 食道扁平上皮癌(進行癌) 2. 食道扁平上皮癌(早期癌)	3. 胃低分化腺癌 4. 大腸高分化腺癌 5. 大腸腺腫内癌	6. 潰瘍性大腸炎 7. クローン病 8. 腸結核	9. 慢性胆嚢炎 10. 慢性膵炎 11. 肝硬変	12. 胆嚢癌 13. 膵癌 14. 肝細胞癌	1. 尿管癌 2. 膀胱癌	3. 慢性前立腺炎 4. 前立腺肥大症 5. 前立腺癌 6. 精巣セミンノーマ	1. dysplasia 2. 頸部扁平上皮癌
11:50 谷	近藤	高村	高村	高村	大橋	大橋	谷

6月16日 火	6月23日 火	6月30日 火	7月7日 火	7月14日 火	7月21日 火
8:30 ユニット③-2 女性生殖器 [子宮] 講義	ユニット③-3 女性生殖器 [卵巢] 講義	ユニット③-4 女性生殖器 [胎盤] 講義	ユニット④ 乳腺 [乳腺] 講義	ユニット⑤-3 腎・泌尿器・男性生殖器 [男性生殖器] 講義	筆記試験 9:00-11:00
5. 子宮体部の非腫瘍性疾患 6. 子宮体癌 7. 子宮体部非上皮性腫瘍	8. 卵巢の正常解剖と組織 9. 卵巢疾患の病理学的分類体系 10. 卵巢の非腫瘍性疾患 11. 卵巢癌	12. 胎盤の正常解剖と組織 13. 胎盤疾患の病理学的分類体系 14. 胎盤・臍帯の非腫瘍性疾患 15. 絨毛性疾患 16. 双胎の病理	1. 乳腺の正常解剖と組織 2. 乳腺の非腫瘍性疾患 3. 線維腺腫・葉状腫瘍 4. 乳癌	11. 男性生殖器の非腫瘍性疾患 12. 腎臓の正常解剖と組織 13. 腎疾患の病理学的分類体系 14. 腎臓の非腫瘍性疾患 15. 腎腫瘍	
10:00 休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
10:20 実習	実習	実習	実習	実習	実習
3. 子宮内腫瘍 4. 子宮平滑筋肉腫	5. 成熟奇形腫 6. 漿液性腺癌	7. 胎状奇胎 8. 絨毛癌	1. 乳腺症 2. 乳癌(硬癌)	7. 精巣卵黄嚢腫瘍 8. 腎細胞癌	
11:50 谷	谷	谷	谷	大橋	大橋

ユニット①「消化器」

担当：臨床病理学分野

到達目標：消化器（食道・胃・大腸・肛門・肝臓・膵臓・胆嚢・胆管）の疾患体系を理解し、代表的疾患についての病理学的所見の解析能力を習得する。

アウトカム：

1. 正常の消化器の組織学的所見を説明できる。
2. 消化器疾患の病理学的分類を説明できる。
3. 食道癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。
4. 胃炎の成因と組織学的所見、胃 MALT リンパ腫との関連を説明できる。
5. 胃癌の組織発生、肉眼・組織学的所見を説明できる。
6. 大腸癌の組織発生、肉眼・組織学的所見を説明できる。
7. 炎症性腸疾患の肉眼・組織学的所見を説明できる。
8. 胆嚢炎、膵炎、肝炎、肝硬変の組織学的所見を説明できる。
9. 胆嚢癌、膵癌、肝細胞癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。

学習方法：

1. 講義（90分） x 5回
2. ユニット①-4, 5 [肝胆膵] は1限目(90分) +2限目の半ば(45分)まで講義を行う
3. 実習（45分/90分） x 5回
顕微鏡もしくはバーチャルスライドで病理組織標本を観察し、プリントにスケッチする。細胞・組織像、病態に関する質問に回答する。
4. 小テスト
講義ごとに小テストを行い、講義内容の理解度を確認する場合がある。

担当教員：（内線、メールアドレス）

臨床病理学分野

高村 佳緒里	2096	takamura@med.niigata-u.ac.jp
谷 優佑	2096	tani@med.niigata-u.ac.jp
近藤 修平	2096	skondo@med.niigata-u.ac.jp

ユニット②「腎・泌尿器・男性生殖器」

担当：臨床病理学分野

到達目標：腎、尿路系（尿道・膀胱）、前立腺、精巣の疾患体系を理解し、代表的疾患についての病理学的所見の解析能力を習得する。

アウトカム：

1. 正常の腎、尿路系、前立腺、精巣の組織学的所見を説明できる。
2. 腎、尿路系、前立腺、精巣の疾患の病理学的分類を説明できる。
3. 良性腎硬化症の肉眼・組織学的所見を説明できる。
4. 腎癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。
5. 膀胱癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。
6. 前立腺癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。
7. 精巣腫瘍の肉眼・組織学的所見を説明できる。

学習方法：

1. 講義（90分） x 3回
2. 実習（90分） x 3回

顕微鏡もしくはバーチャルスライドで病理組織標本を観察し、プリントにスケッチする。細胞・組織像、病態に関する質問に回答する。

担当教員：（内線、メールアドレス）

臨床病理学分野 大橋 瑠子 2096 riuko@med.niigata-u.ac.jp

ユニット③「女性生殖器」

担当：臨床病理学分野

到達目標：子宮、卵巣、胎盤の疾患体系を理解し、代表的疾患についての病理学的所見の解析能力を習得する。

アウトカム：

1. 正常の子宮、卵巣、胎盤の組織学的所見を説明できる。
2. 子宮、卵巣、胎盤疾患の病理学的分類を説明できる。
3. 子宮頸部 dysplasia, 子宮頸癌、体癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。
4. 子宮平滑筋腫と平滑筋肉腫の肉眼・組織学的所見を説明できる。
5. 卵巣嚢胞性疾患の肉眼・組織学的所見を説明できる。
6. 卵巣腫瘍の肉眼・組織学的所見を説明できる。
7. 絨毛性疾患の肉眼・組織学的所見を説明できる。

学習方法：

1. 講義（90分） x 4回
2. 実習（90分） x 4回
顕微鏡もしくはバーチャルスライドで病理組織標本を観察し、プリントにスケッチする。細胞・組織像、病態に関する質問に回答する。
3. 小テスト
講義ごとに小テストを行い、講義内容の理解度を確認する場合がある。

担当教員：（内線、メールアドレス）

臨床病理学分野 谷 優佑 2096 tani@med.niigata-u.ac.jp

ユニット④「乳腺」

担当：臨床病理学分野

到達目標：乳腺の疾患体系を理解し、代表的疾患についての病理学的所見の解析能力を習得する。

アウトカム：

1. 正常の乳腺の組織学的所見を説明できる。
2. 乳腺疾患の病理学的分類を説明できる。
3. 乳腺症、線維腺腫、葉状腫瘍、乳癌の肉眼・組織学的所見を説明できる。

学習方法：

1. 講義（90分） x 1回
2. 実習（90分） x 1回
顕微鏡もしくはバーチャルスライドで病理組織標本を観察し、プリントにスケッチする。細胞・組織像、病態に関する質問に回答する。
3. 小テスト
講義ごとに小テストを行い、講義内容の理解度を確認する場合がある。

担当教員：(内線、メールアドレス)

臨床病理学分野 谷 優佑 2096 tani@med.niigata-u.ac.jp